

第四項 國庫下渡金 金貳千百六拾壹圓貳拾八錢  
歲入合計金八千五百七拾八圓五拾錢

歲出

第一款 巡查給助資金 金八千五百七拾八圓五拾錢  
第一項 給助費 金八千五百七拾八圓五拾錢  
歲出合計金八千五百七拾八圓五拾錢

郡部  
第十一號議案

明治三十四年度東京府郡部歲入歲出追加豫算

書.....可決

歲入

臨時部

第一款 繰越金 金五萬壹千七百貳拾圓貳拾九錢四厘  
第一項 前年度繰越金 金五萬壹千七百貳拾圓貳拾九錢四厘  
第二款 國庫補助金 金貳千貳百四拾貳圓參錢  
第二項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金貳千貳百四拾貳圓參錢

臨時部合計金五萬參千九百六拾貳圓參拾貳錢四厘  
歲入總計金五萬參千九百六拾貳圓參拾貳錢四厘

歲出

經常部

第五款 郡廳舍修繕費 金六拾圓貳拾五錢  
第一項 修繕費 金六拾圓貳拾五錢  
第三款 市郡分賦郡部負擔額 金九千拾圓五拾參錢四厘  
第一項 市郡分賦郡部負擔額 金九千拾圓五拾參錢四厘  
經常部合計金九千七拾圓七拾八錢四厘

臨時部

第五款 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬參千四百五拾貳圓拾七錢九厘  
第一項 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬參千四百五拾貳圓拾七錢九厘  
臨時部合計金壹萬參千四百五拾貳圓拾七錢九厘  
歲出總計金貳萬貳千五百貳拾貳圓九拾六錢參厘



郡部  
第十二號議案

明治三十五年度東京府郡部歲出追加豫算書……………可決

歲出

經常部

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金千五百六拾四圓貳拾錢七厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金千五百六拾四圓貳拾錢七厘

經常部合計金千五百六拾四圓貳拾錢七厘

臨時部

第四款 衛生及病院補助費 金四百八拾八圓參拾參錢參厘

第一項 病院補助費 金四百八拾八圓參拾參錢參厘

臨時部合計金四百八拾八圓參拾參錢參厘

歲出總計金貳千五拾貳圓五拾四錢

郡部  
第十三號議案

明治三十四年度東京府郡部歲出追加豫算書……………可決

歲出

經常部

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金八拾四圓四拾四錢五厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金八拾四圓四拾四錢五厘

經常部合計金八拾四圓四拾四錢五厘

郡部  
第十四號議案

明治三十五年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……………可決

歲入

經常部

第九款 市郡連帶郡部收入額 金六百六拾五圓貳拾八錢

第一項 市郡連帶郡部收入額 金六百六拾五圓貳拾八錢

經常部合計金六百六拾五圓貳拾八錢

歲入總計金六百六拾五圓貳拾八錢

歲出

經常部



第三款 市郡分賦郡部負擔額 金四百八拾六圓八拾貳錢四厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金四百八拾六圓八拾貳錢四厘

經常部合計金四百八拾六圓八拾貳錢四厘

歲出總計金四百八拾六圓八拾貳錢四厘

郡部 諮問第一號 府費支辨道及補助道變更ノ件……………答申議決

府費補助道及町村費支辨道ニ變更路線

名稱	費途區分	長	幅	面積	經過地
農事試驗場道	町村費支辨	四七〇	一〇	六三五	豐多摩郡中野町地内所澤道ヨリ分岐シ中野停車場ヲ經テ新井道ニ達ス
南千住停車場道	府費補助	二八〇	二〇	五六〇	北豐島郡南千住町地内三ノ輪橋道ヨリ分岐シ陸羽街道ニ達ス
小岩停車場道	町村費支辨	二五四	一五	三八一〇	南葛飾郡小岩村地内行徳道ヨリ分岐シ小岩停車場ニ達ス
圖師道	府費補助	二、六三六	一五	九、一八〇	南多摩郡日野町豐田停車場ヨリ超リ稻城往還ヲ經テ由木村ニ至リ府中相原道ヲ經テ忠生村地内大山往還ニ達ス
二十五騎道	府費補助	三、四八四	二五	五七五〇	豐多摩郡内藤新宿町北裏町道ヨリ分岐シ市部入會道ニ達ス

右農事試驗場道南千住停車場道及小岩停車場道ハ孰レモ其ノ名稱ノ通農事試驗場南千住停車場並小岩停車場ニ通シ圖師道ハ豐田停車場新設ノ結果南多摩郡ノ南部ニ通スル必要ニ依リ二十五騎道ハ市部ニ接近セル市街ニ屬シ車馬ノ往來頻繁ナルヲ以テ地方物産ノ運輸交通ノ便益ヲ圖リ府費支辨道ニ編入セントス

府費支辨道ノ一部分ヲ府費補助道ニ變更路線

名稱	長	幅	面積	經過地
小野路道	二、九四〇	一五	四、六六七	南多摩郡鶴川村地内日野往還ヨリ分岐シ由木村地内圖師道ニ接ス

右道路ハ府費支辨道ニ編入セントスル圖師道ニ接近並行セルノミナラス幾多ノ峻峻ナル坂路アリ爲ニ交通稀少ナルヲ以テ之ヲ府費補助道ニ編入セントス

右其ノ會ノ意見ヲ問フ

(答申) 諮問ノ趣旨ニ同意ス

郡部 諮問第二號

東京市街鐵道線路延長敷設ノ件……………答申議決

東京市街鐵道線路延長敷設出願ニ對シ内務大臣ニ於テ別紙命令書案ノ條件ヲ附



シ許可ノ詮議可相成趣ニ付其會ノ意見ヲ問フ  
(別紙)

命令書案

第一條 東京市街鐵道株式會社發起人雨宮敬次郎外十二名ニ對シ特許シタル電氣鐵道ハ左ニ掲クル道路ニ敷設シ一般運輸ノ業ヲ營ムモノトス

一 四谷大木戸郡市境界ニ起リ内藤新宿一丁目二丁目三丁目ヲ過キ新宿停車場ニ至ル

第二條 明治三十三年六月九日下付シタル命令書ノ規定ヲ準用ス

(答申) 命令書案第二條ニ於テ準用ノ明治三十三年六月九日下付セラレタル命令書第七條第二項及第三十七條ヲ削除ノ上許可セラルルヲ可ナリト認ム但第三十七條ヲ削除シ難キ場合ニ於テハ公納金ハ郡部經濟ニ納付セシムルコトニ條文ヲ修正セラレンコトヲ望ム

(答申理由) 明治三十二年六月九日下付ノ命令書第五條第四號ニ鐵軌ヲ布設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス但井戸並木電柱……單線軌道ノ場合ニ於テハ六間以上、複線軌道ノ場合ニ於テハ八間以上……トアリ第七條第二項ニハ道路ノ幅員ニシテ其制限ニ充タサルコト

三尺以内ナルトキ又ハ第五條第四號但書ニ該當スル場合ニ於テ一問以内ナルトキハ警視總監及東京府知事ニ於テ五ヶ年以内ニ限り其擴張ヲ猶豫スルコトアルヘシ……トアリテ道路ノ幅員カ六間若クハ八間以下ナル場合ニ於テモ第七條第二項ニ該當スルトキハ鐵軌布設ヲ許可セラルルコトアルヲ知ルヘシ然ルニ四谷大木戸郡市境界ヨリ内藤新宿ヲ經テ新宿停車場ニ至ル約八百四十間ノ道路中道幅六間以下ノ個所三百九十間アリ現狀ノ儘鐵軌ヲ布設スルトキハ行通上危險ニ付六間以上ニ擴張セシメタル上布設ヲ許可セラルルモノトシ第七條第二項ヲ命令書中ヨリ削除セラレタキ事

同第三十七條ニ會社ハ毎年純益金ノ内ヨリ積立金トシテ其ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シ且其ノ拂込株金ニ對シ年率七分ノ配當ヲ爲スモノトシ尙ホ剩餘アルトキハ其剩餘額ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ東京市ニ納付スヘシ但東京市ニ於ケル金利率年率ニ著シキ變更ヲ來シタルトキハ内務大臣ハ本條ノ年率ヲ變更スルコトアルヘシトアルモ諮問ノ四谷大木戸郡市境界ヨリ新宿停車場ニ至ル間ハ市區改正工事以外ニ於テハ地籍並道路ノ經濟關係等總テ郡部ニ屬スルニ拘ハラズ公納金ヲ東京市ニ納付セシムルハ條理上穩當ナラサルヲ以テ第三十七條ハ命令書中ヨリ削除セラルルヲ適當トス若シ當局ニ於テ該條ヲ削除シ難シトセラルル場合ニハ寧ロ郡部經濟ニ納付セシムルヲ至當ト信スルニ由ル(議員高松喜六意見)

郡部  
諮問第三號

千川用水組合負擔ノ橋梁ヲ府費支辨ニ移スノ件……答申議決



路線名	郡名	町村名	大字	字	橋名	長	幅	橋質
川越街道	北豊島郡	板橋町	上板橋		大山橋	二三〇尺	二三〇尺	石橋
同	同	同	下板橋	郡役所裏	石橋	九〇〇	一三〇〇	同
青梅街道	同	石神井村	關	竹下	伊勢橋	二三〇〇	一〇三〇	木橋
江古田橋	同	同	同		筋違橋	一二〇〇	九〇〇	土橋
板橋間道	同	板橋町	下板橋		五兵衛橋	九〇〇	九〇〇	木橋

右ハ府費支辨道ニ架設シアル橋梁ナルモ千川用水路ニ當レルニ依リ從來該組合ニ於テ其ノ費用ヲ負擔シ來リシ處近來交通頻繁ヲ加ヘ從テ完全ナル施設ヲ爲ササレハ交通上障害不尠ト認ムルニ依リ爾今府費ヲ以テ之ヲ支辨セントス  
右其會ノ意見ヲ問フ  
(答申) 諮問ニ同意ス

明治三十三年度東京府郡部歳入歳出決算書……………承認

第五節 明治三十五年の府會

臨時府會

本會は、明治三十五年六月二十日午後一時四十分の開會し、會議二日間に涉り、六月二十六日午後二時三十一分議事終了閉會した。

開會に際し、知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

「本日臨時府會ヲ開會致スコトデ、當會ニ提出スル議案ハ三十五年度ノ歳入出ノ追加豫算其他ノ議案ヲ提出致シマシタ、各議案提出ノ理由ハ議案ニ添附シタル説明書ニ讓ツテ、此所テハ詳細ナル説明ハ致サナイコトニ致シマス、願ハクハ審議ヲ遂ケラレ適當ノ議決アラムコトヲ望ミマス(明治三十五年府會速記録)」

芳野議長は先づ、次の事項を報告した。

官發第一〇九號

來ル二十日ヨリ開會ノ第一回臨時府會市部會郡部會ノ議事參與員別紙之通ニ有之候間此段及通牒候也

明治三十五年六月十九日 東京府知事 男爵 千家 尊 福

東京府會議長 芳野 世 經 殿

第五章 府會の行動 明治三十五年の府會



(別紙)

東京府書記官床次竹二郎 東京府參事官鈴木兼次郎  
 東京府視學官岡五郎 東京府技師杉谷幸藏  
 東京府屬 鷺見金三郎 東京府屬 比村萬正  
 東京府屬 丹羽勉 東京府屬 吉村政次郎  
 府縣制第四十九條ニ依リ明治三十五年第一回臨時府會市部會郡部會ノ議事ニ  
 參與ヲ命ス

警視 菅井誠美 警視 松井茂  
 警視廳技師 奥貫恭助 警視屬 長澤誠之助  
 警視屬兼警部島田文之助 警視廳技師 大富達丙  
 警視屬 矢吹權 警視屬 平田宗紀  
 府縣制第四十九條ニ依リ明治三十五年第一回臨時府會市部會郡部會ノ議事ニ  
 參與ヲ囑託ス

次に芳野議長は、會議の同意を得て、伊坂半九郎吉田金太郎を會議録署名議員に  
 選定した。

この會議中特筆する事項は、六月二十五日午前七時三十分 皇太子妃殿下御分  
 婉親王殿下御誕生あらせられたので、議長に於て當府會を代表して奉祝の手續を  
 することに、全會一致を以て決議した。

この決議に基いて、六月二十七日府會副議長江間俊一は、宮内省及東宮御所に參  
 上して次の賀表並に賀牋を捧呈した。

(賀表)

謹奉賀

皇孫御降誕

右御執奏被成下度候

明治三十五年六月二十七日

東京府會議長 芳野世經

宮内大臣 子爵 田中光顯殿

(賀牋)

謹奉賀

親王殿下御降誕

第五章 府會の行動 明治三十五年の府會



右言上被成下度候

明治三十五年六月二十七日

東京府會議長 芳野世經

東宮太夫 齋藤桃太郎殿

議事終了と共に、千家知事は閉會の旨を告げた。

議案

府臨第一號議案 明治三十五年度東京府歳入歳出追加豫算書……………可決

府臨第二號議案 議決事件ノ分別中改正ノ件……………議決未了

議決摘要

府臨第一號議案 明治三十五年度東京府歳入歳出追加豫算

書……………可決

歳入

經常部

第二款 國庫下渡金 金四拾參圓貳拾錢

第一款 警察費下渡金 金四拾參圓貳拾錢

第三款 雜收 金百四拾四圓

第六項 辨償 金百四拾四圓

第四款 市郡分賦額 金四千六百拾貳圓參錢貳厘

第一項 市郡分賦額 金四千六百拾貳圓參錢貳厘

但郡部收入

經常部合計金四千七百九拾九圓貳拾參錢貳厘

歳入總計金四千七百九拾九圓貳拾參錢貳厘

市部收入 金百六拾四圓參拾錢四厘

内郡部收入 金四千六百參拾四圓九拾貳錢八厘

歳出

經常部

第一款 警察費 金百八圓

第二款 廳費 金百八圓

第三款 土木費 金貳千六百九拾壹圓九拾貳錢

第二項 治水堤防費 金貳千六百九拾壹圓九拾貳錢

第五章 府會の行動

明治三十五年の府會



第七款 救 育 費 金參萬千八百四拾四圓五拾八錢

第一項 救 助 費 金參萬千八百四拾四圓五拾八錢

精神病者費

第九款 勸 業 費 金四百五拾五圓六拾錢

第二項 勸 業 諸 費 金四百五拾五圓六拾錢

經常部合計金參萬五千百圓拾錢

臨時部

第二款 教 育 費 金五百拾八圓

第六項 第一高等女學校費 金貳百五拾九圓

第七項 第三高等女學校費 金貳百五拾九圓

第三款 教 育 補助費 金參百圓

第一項 教 育 補助費 金參百圓

臨時部合計金八百拾八圓

歲出總計金參萬五千九百拾八圓拾錢

内 市 部 負 擔 金貳萬八千五百六拾六圓四拾八錢參厘

郡 部 負 擔 金七千參百五拾壹圓六拾壹錢七厘

(原案説明) 歲入歲出差引不足金參萬千百拾八圓八拾六錢八厘ハ既往ノ歲入超過金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

府臨第二號議案 議決事件ノ分別中改正ノ件……………議決未了

明治三十二年勅令第二百八十五號第三條ニ依リ府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別中左ノ通改ムルモノトス

郡部會議決事件中町村警備補助費ノ次ニ行政執行費但シ郡部内ニ於ケル事件ニ係ルモノノ二十一字ヲ加フ

右議了セス

(原案説明) 本案ヲ提出スル所以ハ郡部内ニ於テ行政執行法ニ基ク代執行ニ係ル費用ノ支出ヲ要スルカ爲之カ費目ヲ設置セントスルニ由ル

(附記) 本案は議員定員の五分の四以上の出席がなければ、會議を開くことの出來ぬ事件で、會期中定足數の出席を見ることが出來なかつたため議決未了となつたのである。



臨時市部會

本會は、明治三十五年六月二十六日午後二時五分に開議し、即日議事終了して、午後二時十分散會した。

角田議長は、會議の同意を得て、伊坂半九郎、渡邊友次郎を會議録署名議員に選定した。

議案

市臨第一號議案部

明治三十五年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……………可決

市臨第二號議案部

不動産賣却ノ件……………可決

議決摘要

市臨第一號議案部

明治三十五年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……………可決

歳入

第七款 國庫下渡金

金貳千七拾九圓六拾錢

經常部

第一項 警察費下渡金 金貳千七拾九圓六拾錢

第八款 雜收入 金六千圓

第六項 辨償金 金六千圓

留置人費辨償金

第九款 市郡連帶市部收入額 金百六拾四圓參拾錢四厘

第一項 市郡連帶市部收入額 金百六拾四圓參拾錢四厘

經常部合計金八千貳百四拾參圓九拾錢四厘

臨時部

第三款 財產賣拂代 金千八百貳拾七圓五拾錢

第一項 不動産賣拂代 金千八百貳拾七圓五拾錢

臨時部合計金千八百貳拾七圓五拾錢

歳入總計金壹萬七拾壹圓四拾錢四厘

歳出

經常部

第一款 警察費 金四千五百圓



第二項 廳 費 金四千五百圓

第六款 財 產 費 金參拾四圓八拾錢

第一項 管 理 費 金參拾四圓八拾錢

第八款 市郡分賦市部負擔額 金貳萬八千五百六拾六圓四拾八錢參厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金貳萬八千五百六拾六圓四拾八錢參厘

經常部合計金參萬參千壹圓貳拾八錢參厘

臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金六百九拾九圓

第一項 建 築 費 金六百九拾九圓

臨時部合計金六百九拾九圓

歲出總計金參萬參千八百圓貳拾八錢參厘

(原案說明) 歲出ニ比シ歲入ノ不足金貳萬參千七百貳拾八圓八拾七錢九厘ハ既往ノ歲入超過金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

市部 臨時第二號議案 不動産賣却ノ件……………可 決

東京市淺草區猿屋町十七番地  
一土地四十八坪  
此豫定價格金千四百四拾圓

同 所

一建物一棟

外ニ門牆等

此豫定價格金參百八拾七圓五拾錢

右不用ニ屬スルヲ以テ之ヲ賣却スルモノトス

(原案說明) 本案土地建物ハ淺草警察分署廢止ノ結果不用ニ屬スルヲ以テ之ヲ賣却セントスルニ由ル

臨時郡部會

本會は明治三十五年六月二十日午後二時十分に開議し、會議三日間に涉り六月二十六日午後二時三十分議事終了散會した。

谷岡議長は、會議の同意を得て、井上吉之助、瀨沼伊兵衛を會議錄署名議員に選定



した。

議案

郡 第一號議案部

明治三十五年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可 決

郡 第二號議案部

明治三十五年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………議決未了

議決摘要

郡 第一號議案部

明治三十五年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可 決

歳入

經常部

第七款 國庫下渡金 金百八拾四圓五拾錢

第一項 警察費下渡金 金百八拾四圓五拾錢

第八款 雜收入 金六百圓

第六項 辨償金 金六百圓

留置人費辨償金

第九款 市郡連帶郡部收入額 金貳拾貳圓八拾九錢六厘

第一項 市郡連帶郡部收入額 金貳拾貳圓八拾九錢六厘

經常部合計金八百七圓參拾九錢六厘

臨時部

第一款 繰越金 金壹萬千百拾四圓六拾壹錢八厘

第一項 前年度繰越金 金壹萬千百拾四圓六拾壹錢八厘

臨時部合計金壹萬千百拾四圓六拾壹錢八厘

歳入總計金壹萬千九百貳拾貳圓壹錢四厘

歳出

經常部

第一款 警察費 金四百六拾壹圓貳拾五錢

第二項 廳費 金四百六拾壹圓貳拾五錢

第三款 土木費 金五千八拾四圓六拾錢

第一項 道路橋梁費 金四千四百貳拾六圓拾貳錢

第二項 治水堤防費 金六百五拾八圓四拾八錢

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金七千參百五拾壹圓六拾壹錢七厘



第一項 市郡分賦郡部負擔額 金七千參百五拾壹圓六拾壹錢七厘

經常部合計金壹萬貳千八百九拾七圓四拾六錢七厘

歲出總計金壹萬貳千八百九拾七圓四拾六錢七厘

(原案説明) 歲出ニ對スル歲入ノ不足金九百七拾五圓四拾五錢參厘ハ既往ノ歲入超過金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

郡部 臨第二號議案部 明治三十五年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……議決未了

歲入

經常部

第八款 雜收 金五百四拾圓

第六項 辨償金 金五百四拾圓

代執行辨償金

經常部合計金五百四拾圓

歲入總計金五百四拾圓

歲出

經常部

第二款 行政執行費 金五百四拾圓

第一項 代執行費 金五百四拾圓

經常部合計金五百四拾圓

歲出總計金五百四拾圓

右議了セス

(附記) 本案は、府會に於て議決未了に終つた、府臨第二號議案議決事件の分別中改正の件と關聯した議案であつたから、一方の議案が議決未了となつた關係上、本案も議決されなかつたのである。

通常府會

本會は、明治三十五年十一月十七日午後二時二十一分に開會し、會議八日間に涉り、十二月四日午後四時十九分議事終了閉會した。

開會の劈頭に、知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

「諸君 本日ヲ以テ通常會ヲ開設致シマス、本會ニ提出スル議案ハ三十六年度歲入歲出豫算



其他ノ議案並ニ諮問案デアリマスカ、各議案ノ理由ハ議案ニ添附シタル説明書ニ讓ツテ省略致シ置キマス、中ニ就テ警察行政ノ刷新ニ伴フ費用並ニ第四中學校建築費等カ重モナルモノデアリマス、本年度ニ於キマシテモ追加豫算トシテ勸業費教育費其他支出ヲ要スル議案ヲ提出致スコトデアリマス、願ハクハ審議ヲ遂ケラレ適當ノ決議アラムコトヲ望ム次第デアリマス(明治三十五年府會速記録)

芳野議長は先づ、次の諸件を報告した。

官發第一七七號

府縣制第四十九條ニ依リ本年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與人名別記之通ニ有之候此段及通牒候也

明治三十五年十一月十二日 東京府知事 男爵 千家 尊 福

東京府會議長 芳野 世 經 殿

(別紙)

東京府書記官床次竹二郎	東京府參事官鈴木兼次郎
東京府視學官岡五郎	東京府技師杉谷幸藏
東京府屬白石賴貞	東京府屬鷺見金三郎
東京府屬丹羽勉	東京府屬高根達

東京府屬久保義三郎	東京府技師三浦吉勝
東京府技師王供阿久	東京府技師齋藤勝藏

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十五年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ命ス

警視 菅井誠美	警視廳技師 奧貫恭助
警視屬 長澤誠之助	<small>消防士兼消防機關士警視廳警部</small> 寶田通經
警視廳技師 大富達丙	警視廳警部 森英雄
警視屬 矢吹權	警視屬 平田宗紀

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十五年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ囑託ス  
一發第一二二九號  
府會議員左記之通異動候條此段及報告候也

明治三十五年十一月十七日 東京府知事 男爵 千家 尊 福

東京府會議長 芳野 世 經 殿

記



辭職	江間俊一
補闕當選	杉原榮三郎
辭職	角田眞平
補闕當選	福田又一
辭職	比留間邦之助
補闕當選	秋木喜七
辭職	伊東茂右衛門
補闕當選	松見文平
死亡	高松喜六

又議長は、議員高松喜六死亡につき、前例に依り次の弔詞を贈つたことを報告した。

東京府會ハ議員高松喜六君ノ遠逝ヲ哀悼シ茲ニ恭ク弔詞ヲ呈ス

明治三十五年十一月六日

東京府會議長 芳野世經

議長は、府會副議長の補闕選舉を行ひ、井上吉之助が投票多數を以て當選し、而して常設土木委員一名の補闕選舉を行つて、富澤松之助が當選した。

次に會議の同意を得て、會議錄署名議員に、伊坂半九郎、岩崎宗吉を選定した。

この會議では、軌近織物組合の經營せる八王子織染學校を府立に移管したこと等が動機となつて、實業教育の振興を圖かるの機運を醸成し、府費を以て中學程度の商業學校及農業學校設立を希望する建議が出て孰れも可決した。而して前者は市部議員が熱心に主張し、後者は郡部議員が之を主唱した。兎に角この建議に基いて後年先づ工藝學校と園藝學校とが設立され、續いて其の他の實業學校數校の設立を見るに至つた。

次に、會議の最終日閉會の直前に於て、多數の議員が交々當局に對する注意若くは希望を演説したことは、特異の事項である。先づ杉原榮三郎は、議事も順調に終了したが、豫算の執行上萬遺算なきを期せられたいと理事者に希望し、井田忠信は、甲武鐵道日本鐵道踏切の危険を指摘して、之が防止の處置を警視廳當局に希望し、福田又一は、提案に對し議會が却て増額し或は繼續年限を短縮する等の議決をした場合に、理事者が何の異議もないのみならず、却て満足の様子であるのは、發案上其の意思の確乎たらざる所以であると難じて、將來の注意を促がし、齋藤孝治は、五十歳以上の人力車夫營業を許可せぬのは、個人經濟上の社會問題として考慮すべ



きであり、人寄席で講釋師や落語家が猥褻の言語を發した場合に、席亭の主人を處罰するのは穩當でないと説き、又墓地に關しては、一管理者の管理地面が千坪以上の面積が無ければ土葬を許されないが、接續した墓地を通算して千坪以上あれば、たとへ管理者が異なつても土葬を許可せらるべきであると警視廳當局に希望する所があり、谷岡慶治は、荷積小車は、荷臺の平方尺積十四坪未滿と規定されてゐるが、俗に「車オサ」と稱し一本の木を繩又は銅鐵線等で結ひ付け、嵩高の荷物や、積にくい荷物を積載した場合に、荷物が荷臺外にハミ出してゐれば、之を十四坪以上と看做して處罰されて居るが、是等の場合は取締上、手心を以て扱はれたいと希望し、牧田義雄は、乳牛牧場取締規則に關して當局に希望するところがあつた。從來とても、議員が理事者に對して希望を述べたことはあるが、會議の最終日に多數議員が交々起立して、注意若くは希望事項を演説する慣例は、この通常會から始まつて爾來踏襲されてゐるのである。

十二月四日議事が終了したので、千家知事は閉會辭を述べて會を閉ぢた。

議案 附建議案

府第一號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別改正ノ件……………可決

府第二號議案 明治三十六年度市部郡部ノ分擔及收入ノ割合……………可決

府第三號議案 府會議員名譽職參事會員費用辨償額及支給方法……………可決

府第四號議案 府ノ有給吏員職員ノ退隱料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給規則……………修正

府第五號議案 常設委員廢止ノ件……………可決

府第六號議案 明治三十六年度東京府歳入歳出豫算書……………可決

府第七號議案 明治三十六年度東京府罹災救助基金歳入歳出豫算書……………可決

府第八號議案 明治三十六年度東京府小學校教員恩給基金歳入豫算書……………可決

府第九號議案 明治三十六年度東京府小學校教員恩給金歳入歳出豫算書……………可決

府第十號議案 明治三十六年度東京府第一高等女學校基本金歳入豫算書……………可決

府第十一號議案 明治三十六年度東京府小學校教員加俸資金歳入豫算書……………可決



入歳出豫算書……………	可決
府第十二號議案 明治三十六年度東京府教育資金歳入歳出豫算書……………	可決
府第十三號議案 不動産寄付受領ノ件……………	可決
府第十四號議案 不動産買受ノ件……………	可決
府第十五號議案 不動産賣却ノ件……………	可決
府第十六號議案 明治三十五年度東京府歳入歳出追加豫算書……………	可決
府第十七號議案 明治三十五年度東京府小學校教員恩給金歳入歳出追加豫算書……………	可決
府第十八號議案 自明治三十五年度至明治三十六年度東京府土木費繼續年期及支出方法……………	可決
府第十九號議案 明治三十五年度東京府歳入歳出追加豫算書……………	可決
府第二十號議案 明治三十六年度東京府歳入歳出追加豫算書……………	可決
府第二十一號議案 不動産賣却ノ件……………	可決
府第二十二號議案 不動産買受ノ件……………	可決
明治三十四年度東京府歳入歳出決算書……………	承認

市内ニ府立商業學校ヲ建設スル建議案……………可決  
 郡部ニ府立農學校ヲ建設スル建議案……………可決

議決摘要

府第一號案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別改正ノ件……………可決

明治三十二年勅令第二百八十五號第三條ニ依リ府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別左ノ通改メ明治三十六年度所屬ノモノヨリ施行スルモノトス

- 一歳入豫算 但市部ニ屬スルモノ
- 一歳出豫算中
  - 警察費 但市内及水上ノ警察ニ關スル諸費
  - 警察廳舎建築費 但同上
  - 警察廳舎修繕費 但同上
  - 衛生及病院費 但市内ノ傳染病豫防及檢査ニ關スル諸費
  - 市町村傳染病豫防補助費 但市内ニ關スルモノ



教育費

但職工學校ニ關スル諸費

府費取扱費

但市内ノ府稅徵收費ニ關スルモノ

府吏員費

但市内ノ檢稅ニ從事スル吏員ニ關スル諸費

財産費

但市内ニ屬スル府有財産ニ關スル諸費

行政執行費

但市内ニ係ルモノニシテ他ノ費目ニ屬セサルモノ

豫備費

但市部歳出ニ充ツルモノ

一前二項歳入歳出豫算各科目ニ關聯又ハ附帶ノ事件

一府稅賦課徵收方法

但市部ニ屬スル府稅ニ關スルモノ

一營業稅雜種稅課目課額

但同上

一市部ニ屬スル特別經濟ニ關スルモノ

以上市部會議決事件

一歳入豫算

但郡部ニ屬スルモノ

一歳出豫算中

警察費

但郡内ノ警察ニ關スル諸費

警察廳舎建築費

但同上

警察廳舎修繕費  
土木費

但同上

但郡内道路橋梁其ノ他土木事業 市郡ニ接續スル橋梁及荒川  
多摩川・江戸川・中川・綾瀬  
川・新川・淺川・秋川・海老取川ノ  
治水堤防費ニ關スルモノヲ除クニ關スル諸費

郡市町村土木補助費

但郡内ニ關スルモノ

衛生及病院費

但郡内ノ傳染病豫防及檢徵ニ關スル諸費

衛生及病院補助費

但郡立ノ傳染病院病舎ニ關スルモノ

市町村傳染病豫防補助費

但郡内ニ關スルモノ

郡廳舎建築費

郡廳舎修繕費

郡役所費

但郡内棄兒及窮民ノ養育ニ關スル諸費

救育費

諸達書及揭示諸費

但郡役所ノ揭示場ニ關スル諸費

勸業費

但農事試驗場及測候ニ關スル諸費

勸業補助費

但農會及製茶業ニ關スルモノ

府費取扱費

但郡内ノ府稅徵收費ニ關スルモノ



府吏員費

但郡内ノ檢稅ニ從事スル吏員ニ關スル諸費

財産費

但郡部ニ關スル府有財産ニ關スル諸費

町村警備補助費

但千住大橋ノ警備費ニ關スルモノ

行政執行費

但郡内ニ係ルモノニシテ他ノ費目ニ屬セサルモノ

豫備費

但郡部歳出ニ充ツルモノ

一前二項歳入歳出豫算各科目ニ關聯又ハ附帶ノ事件

一府稅賦課徵收方法

但郡部ニ屬スル府稅ニ關スルモノ

一營業稅雜種稅課目課額

但同上

一郡部ニ屬スル特別經濟ニ關スルモノ

以上郡部會議決事件

一市部會郡部會ニ屬セサル歳入歳出豫算及其ノ他ノ事件

以上府會議決事件

(原案説明) 本案改正ヲ要スルハ府費取扱費ヲ分割シテ府吏員費ヲ設クルト郡部特別經濟タリシ救恤資金ニ屬スル窮民救助ヲ普通經濟ニ移スト其ノ他不備ノ點ヲ補フトニ由ル

府第二號議案 明治三十六年度市部郡部ノ分擔及收入ノ割

合ノ件……………可決

明治三十二年勅令第二百八十五號第五條ニ依リ明治三十六年度府費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合左ノ通定ムルモノトス

市部郡部分擔ノ割合

教育費

織染學校費

市 四分一厘  
郡 五分九厘

市部郡部分擔ノ割合參考表

科	目	三十六年度市郡割合	割合	標準
教育費	織染學校費	市 四分一厘 郡 五分九厘		戸數ヲ準トシ郡部ハ戸數ノ五倍トス

府第三號議案 府會議員名譽職參事會員費用辨償額及其ノ

支給方法……………可決

府縣制第九十四條ニ依リ府會議員名譽職參事會員費用辨償額及其ノ支給方法左



ノ通改ムルモノトス

第一條 名譽職員ノ職務ノ爲要スル費用辨償額ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外別表定ムル所ニ依ル

第二條 年額手當ハ一會計年度間ニ於ケル費用ノ辨償トシテ議長副議長及議員ニ之ヲ給ス

年額手當ハ通常會ニ參會シタル日數其ノ開會日數ノ半ニ滿タサルトキハ十分ノ四ヲ減シ全ク參會セサルトキハ十分ノ八ヲ減シ臨時會ニ參會セサルトキハ十分ノ二ヲ減ス

臨時會ノ開會二回以上ニ及フトキハ年額手當十分ノ二ヲ其ノ回數ニ割當參會セサル臨時會ノ回數ニ應シテ年額手當ヲ減ス此ノ場合ニ於テ手當ノ額ニ異動アルトキハ參會セサリシ當時ノ資格ニ伴フ額ニ依ル

第三條 議長副議長名譽職參事會員ニハ議員ノ手當ヲ給セス

府會議長同副議長部會議長同副議長ヲ互ニ兼ヌル者ノ手當ハ其ノ一ヲ給シ其ノ額異ナルトキハ多キニ依ル

議長副議長ニシテ名譽職參事會員ヲ兼ヌル者ハ月額手當ヲ給シテ其ノ他ヲ給

セス

第四條 議長副議長ニ更迭アリタルトキノ手當ハ議長副議長議員ヲ通シテ其一ヲ給シ其ノ額異ナルトキハ多キニ依ル但シ通常會ノ開會中ニシテ議長副議長議員ヲ通シ參會シタル日數開會日數ノ半數以上ニ達シ而シテ議長又ハ副議長在職中參會シタル日數開會日數ノ半ニ滿タサルトキハ手當ノ多キ方及少ナキ方ノ各二分ノ一ヲ給ス

府會ノ開會中ニ於テ名譽職參事會員トナリタル者ノ手當ハ第五條ニ依リ月額手當ヲ給スルニ至ル迄ノ參會日數又之ヲ退キタル者ノ手當ハ同條ニ依リ月額手當ヲ給セサルニ至リタル以後ノ參會日數ニ對シテハ各第二條ニ依ル

第五條 月額手當ハ名譽職參事會員ニ之ヲ給ス

名譽職參事會員全ク召集ニ應セサリシ月ハ手當ヲ給セス

第六條 日額手當ハ臨時ニ補充シタル名譽職參事會員ニ其ノ參會シタル日數ニ應シ之ヲ給ス但シ府會開會中ナルトキハ之ヲ給セス此場合ニ於テハ其ノ參會日數ヲ第三條ノ參會日數ニ通算スルコトヲ得

第七條 年額手當ハ通常會ニ參會ノ日數ニ應シ其ノ十分ノ八以内ヲ通常會ノ終



ニ其ノ殘額ヲ會計年度末ニ月額手當ハ翌月五日迄ニ日額手當ハ閉會後五日以内ニ之ヲ給ス

第八條 旅費ハ名譽職員旅行ノ場合ニ於テ順路ニ依リ之ヲ給ス

第九條 汽車旅行ハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ水路旅行ハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ哩數ニ應シ車馬賃ヲ給ス

汽車賃船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ路程ヲ合算シテ之ヲ給ス但シ一位未滿ノ端數ハ切捨トス

第十條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ給セス

汽車十哩未滿水路十海里未滿陸路六里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ給セス但シ宿泊シタルトキハ宿泊ノ數ニ應シ日當ヲ給ス

前項ノ場合ニ於テ汽車旅行水路旅行陸路旅行相跨ルトキハ海里數哩數ヲ里數ニ換算シテ其ノ給否ヲ定ム

第十一條 旅行中私事ノ爲迂路ヲ通過シタルトキハ順路ノ行程ニ應シ汽車旅行ハ一日二百哩諸水路旅行ハ一日百海里諸陸路旅行ハ一日十二里諸トシ其ノ日

數ヲ計算ス但シ汽車旅行ト陸路旅行相跨ルトキハ各其ノ路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス  
前項計算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

附 則

此ノ改正ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

會名	年 額			職名	月 額		旅 費		
	議 長	副 議 長	議 員		市部參事會員	郡部參事會員	汽車賃	船 賃	
府 會	百八拾圓	百五拾圓		市部參事會員	郡部參事會員	四拾圓	四拾五圓	五 錢	五 錢
部 會	百五拾圓	百 圓		臨時補充	參事會員	四拾五圓	貳 圓	貳拾錢	貳拾錢
郡部ニ住所ヲ占ムル者ナルトキハ貳拾圓ヲ				臨時補充	參事會員	貳 圓	日 當	五拾錢	日 當
增額ス				臨時補充	參事會員	貳 圓	宿泊料	貳 圓	宿泊料

府第四號議案 府ノ有給吏員職員ノ退隱料退職給與金遺族

扶助料及其ノ支給規則……………修正



第九條 退隱料年額ハ退職當時ニ於ケル俸給三箇月分トシ在職十五年以上四十年ニ至ル迄一年ヲ加フル毎ニ退職當時ノ俸給月額十分ノ一二十分ノ一ト修正ヲ増加ス

(修正理由) 官吏恩給法ノ例ニ準スルヲ適當トスルニ由ル(議員 谷崎安太郎 福田又一郎 動議)  
在職四十年以上ノ者ハ四十年ノ額トシ十五年未滿ノ者ハ十五年ノ額トス  
兼職ニ依テ受クル加俸ハ退隱料ヲ算定スルニ當リ加算セス  
前條ニ當ル者ニハ傷疾疾病ノ輕重ニ依リ(前項)本條第一項ト修正ノ退隱料年額十分ノ七以內ヲ増加ス

(修正理由) 法文妥當ナラスト認ムルニ由ル(議員 谷崎安太郎 福田又一郎 動議)

府第五號議案 常設委員廢止ノ件……………可 決

東京府名譽職常設委員設置規程及東京府常設委員費用辨償額及其ノ支給方法ハ明治三十六年九月限り廢止スルモノトス

(原案説明) 委員ノ設置ハ短期間ニアラサレハ許可セラレサルノ例トナリタルヲ以テ從前既ニ設置ノモノモ亦之ヲ改ムルノ必要アリ之レ本案ヲ提出セシ所以ナリ

府第六號議案 明治三十六年度東京府歳入歳出豫算書……………可 決

歳 入

經常部

- 第一款 財 産 收 入 金壹萬八百拾參圓參拾九錢壹厘
  - 第一項 不 動 産 收 入 金壹萬百九拾參圓參拾九錢壹厘
  - 第二項 動 産 收 入 金六百貳拾圓
- 第二款 國 庫 下 渡 金 金參萬千四百七拾六圓四錢四厘
  - 第一項 警 察 費 下 渡 金 金參萬千四百七拾六圓四錢四厘
  - 第三款 雜 收 入 金拾壹萬千五百拾圓四拾錢貳厘
  - 第四款 市 郡 分 賦 額 金七拾萬六千五百貳拾九圓五拾貳錢九厘
    - 内 市 部 收 入 金五拾貳萬九千四百貳拾八圓四拾貳錢貳厘
    - 郡 部 收 入 金拾七萬七千百壹圓拾錢
    - 第一項 市 郡 分 賦 額 金七拾萬六千五百貳拾九圓五拾貳錢九厘

經常部合計金八拾六萬參百貳拾九圓參拾六錢六厘



臨時部

第一款 國庫補助金 金四千四百六拾六圓拾參錢六厘

第一項 織染學校費補助金 金參千圓

第二項 蠶種檢查費補助金 金千四百六拾六圓拾參錢六厘

第二款 財產賣拂代 金八千參百貳拾貳圓五拾貳錢

第一項 不動產賣拂代 金八千參百貳拾貳圓五拾貳錢

臨時部合計金壹萬貳千七百八拾八圓六拾五錢六厘

歲入總計金八拾七萬參千百拾八圓貳錢貳厘

市部收入 金六拾七萬九百四拾五圓貳拾七錢五厘

內 郡部收入 金貳拾萬貳千百七拾貳圓七拾四錢七厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金七萬八千六百四拾圓拾壹錢

第一項 俸給及諸給 金參萬九百五圓八拾五錢

巡查九十二人月俸拾四圓此金壹萬五千四百五拾六圓九十八人月俸八圓此金八

千六百四拾圓

(原案說明) 前年度ニ比シ巡查ヲ増員セシハ警視廳ニ在テ刑事々務ヲ掌ル巡查俸給ハ從來市部警察費中ニ編入シアリシモ性質上府經濟ニ屬スヘキモノト認メ本款ニ移シタルト本年度以降巡查ヲ増員スヘキ見込ナルニ依リ教習所及教習係巡查ヲ増スト鍛冶橋監獄移轉ニ伴ヒ留置人押送上巡查ノ増員ヲ要スルトニ由ル

第二項 廳費 金壹萬七千七百參拾四圓貳拾六錢

第三項 警察機密費 金參萬圓

第二款 警察廳舍修繕費 金五拾圓

第一項 修繕費 金五拾圓

第三款 土木費 金五萬七千貳拾五圓六錢壹厘

第一項 道路橋梁費 金貳百五拾圓

第二項 治水堤防費 金五萬六千七百七拾五圓六錢壹厘

第四款 府會議諸費 金壹萬貳千貳百八拾五圓六拾錢

第一項 府會議費 金七千六百貳拾七圓五拾錢

第二項 府參事會諸費 金四千六百五拾八圓拾錢

第五款 衛生及病院費 金六萬五千五百四拾壹圓五拾八錢五厘



- 第一項 衛生諸費 金百五拾參圓參拾錢
- 第二項 巢鴨病院費 金六萬五千參百八拾八圓貳拾八錢五厘
- 第六款 教育費 金貳拾貳萬五千參百五拾八圓八拾九錢參厘
- 第一項 師範學校費 金五萬四千八百拾五圓七拾壹錢參厘
- 第二項 女子師範學校費 金參萬四百四拾九圓拾七錢
- 第三項 第一中學校費 金參萬百六拾貳圓九錢
- 第四項 第二中學校費 金壹萬七千六百九拾參圓貳拾九錢
- 第五項 第三中學校費 金貳萬千六百八拾圓九拾壹錢
- 第六項 第四中學校費 金貳萬參千參百拾參圓八拾壹錢
- 第七項 第一高等女學校費 金壹萬四千貳百九拾四圓參拾貳錢
- 第八項 第二高等女學校費 金四千六百五拾四圓四拾錢
- 第九項 第三高等女學校費 金壹萬四千六百貳拾九圓九錢
- 第十項 織染學校費 金壹萬千七拾九圓四錢
- 第十一項 學事諸費 金千五百七拾七圓九拾錢
- 第十二項 小學校教員檢定及圖書審査費 金千九圓拾六錢

第七款 救育費

第一項 救助費 金五萬參千五百五拾貳圓拾錢

第八款 諸達書及揭示諸費 金貳千貳百參拾六圓參錢貳厘

第九款 勸業費 金貳千貳百參拾六圓參錢貳厘

第一項 勸業會費 金參萬八百拾貳圓九拾壹錢

第二項 勸業諸費 金九千八百六拾參圓貳拾八錢

第三項 森林經營費 金五千六百壹圓六拾錢

第四項 獸疫豫防費 金壹萬參千百參拾壹圓六拾參錢

第十款 府費取扱費 金貳千貳百拾六圓四拾錢

第十款 府費取扱費 金參千八百圓

第一款 府廳舍修繕費 金參千八百圓

第二款 府廳舍修繕費 金參千貳百六拾六圓壹錢九厘

第一款 修繕費 金參千貳百六拾六圓壹錢九厘

第三款 衆議院議員選舉費 金貳百拾圓

第一款 選舉費 金貳百拾圓



第三款 府會議員選舉費 金九百九拾五圓四拾五錢

第一項 選舉費 金九百九拾五圓四拾五錢

第四款 府吏員費 金參萬四千七百九拾壹圓九拾五錢

第一項 吏員費 金參萬參千六百壹圓九拾五錢

第二項 委員費 金千百九拾圓

第五款 財產費 金九拾八圓八拾錢

第一項 管理費 金九拾八圓八拾錢

第六款 土地收用費 金貳百貳拾四圓五拾錢

第一項 審查諸費 金貳百貳拾四圓五拾錢

第七款 豫備費 金六千圓

第一項 豫備費 金六千圓

經常部合計金五拾七萬四千四百八拾九圓壹錢

臨時部

第一款 土木費 金五萬八千四百六拾貳圓九拾貳錢貳厘

第一項 道路橋梁費 金四千百八圓

第二款 治水堤防費 金五萬四千參百五拾四圓九拾貳錢貳厘

衛生及病院費 金四百貳拾圓

第一款 巢鴨病院費 金四百貳拾圓

第三款 教育費 金拾六萬七千九百六拾九圓六拾貳錢

第一項 師範學校費 金六百四拾參圓五拾錢

第二項 第一中學校費 金四千六百四拾九圓拾錢

第三項 第二中學校費 金六百拾貳圓

第四項 第三中學校費 金四百拾七圓

第五項 第四中學校費 金拾四萬七千參百五拾貳圓七拾五錢

本校舎理化博物教室講室其他

第六項 織染學校費 金壹萬四千貳百九拾五圓貳拾七錢

第四款 教育補助費 金貳千圓

第一項 教育補助費 金貳千圓

東京府教育會補助日本體育會補助

第五款 勸業費 金貳千圓



第一款 森林經營費 金貳千圓

第六款 勸業補助費 金五千圓

第一項 勸業補助費 金五千圓

第五回內國勸業博覽會東京出品聯合會費補助

第七款 府廳舍建築費 金千九百參拾七圓七拾錢

第八款 衛生及病院費本年度支出額 金六萬八百參拾八圓七拾七錢

第一項 集鳴病院費本年度支出額 金六萬八百參拾八圓七拾七錢

臨時部合計金貳拾九萬八千六百貳拾九圓壹錢貳厘

歲出總計金八拾七萬參千百拾八圓貳錢貳厘

市部	負擔	金六拾七萬九百四拾五圓貳拾七錢五厘
郡部	負擔	金貳拾萬貳千百七拾貳圓七拾四錢七厘

府第七號議案 明治三十六年度東京府罹災救助基金歲入歲

歲入

出豫算書……………可決

第一款 罹災救助基金 金四萬百拾四圓五拾錢

第一項 繰越金 金貳千圓

第二項 益金 金參萬八千百拾四圓五拾錢

歲入合計金四萬百拾四圓五拾錢

歲出

第一款 罹災救助基金 金四萬百拾四圓五拾錢

第一項 救助費 金貳千四百六拾五圓

第二項 公債證書買入代 金參萬七千六百四拾九圓五拾錢

歲出合計金四萬百拾四圓五拾錢

府第八號議案 明治三十六年度東京府小學校教員恩給基金

歲入豫算書……………可決

歲入

第一款 小學校教員恩給基金 金貳千九百七拾九圓四錢四厘

第一項 納付金 金貳千九百七拾九圓四錢四厘



歲入合計金貳千九百七拾九圓四錢四厘

府第九號議案 明治三十六年度東京府小學校教員恩給金歲

入歲出豫算書……………可決

歲入

第一款 小學校教員恩給金 金四千七百九拾貳圓參拾參錢

第一項 恩給基金利子 金貳千八拾圓

第二項 國庫給與金 金千七百拾貳圓參拾參錢

第三項 補充金 金千圓

歲入合計金四千七百九拾貳圓參拾參錢

歲出

第一款 小學校教員恩給金 金四千七百九拾貳圓參拾參錢

第一項 恩給金 金四千七百九拾貳圓參拾參錢

歲出合計金四千七百九拾貳圓參拾參錢

府第十號議案 明治三十六年度東京府第一高等女學校基本

金歲入豫算書……………可決

歲入

第一款 第一高等女學校基本金 金參拾六圓六拾五錢貳厘

第一項 財產收入 金參拾六圓六拾五錢貳厘

歲入合計金參拾六圓六拾五錢貳厘

府第十一號議案 明治三十六年度東京府小學校教員加俸資

金歲入歲出豫算書……………可決

歲入

第一款 小學校教員加俸資金 金四萬千九百四拾貳圓五拾貳錢九厘

第一項 前年度繰越金 金百圓

第二項 國庫補助金 金參萬七千圓

第三項 財產收入 金四千八百四拾貳圓五拾貳錢九厘

歲入合計金四萬千九百四拾貳圓五拾貳錢九厘

歲出



第一款 小學校教員加俸資金 金參萬五千九百四拾五圓四拾錢  
 第一項 年功加俸 金參萬貳千六百參拾參圓四拾錢  
 第二項 特別加俸 金參千參百拾貳圓  
 歲出合計金參萬五千九百四拾五圓四拾錢

府第十二號議案 明治三十六年度東京府教育資金歲入歲出  
 豫算書……………可決

歲入

第一款 教育資金 金貳萬九千四百六拾六圓貳拾五錢  
 第一項 前年度繰越金 金五拾圓  
 第二項 國庫下付金 金壹萬九千五百圓  
 第三項 財産收入 金九千九百拾六圓貳拾五錢  
 歲入合計金貳萬九千四百六拾六圓貳拾五錢

歲出

第一款 教育資金 金貳萬九千四百五拾圓  
 第一項 貸付金 金貳萬參千四百五拾圓  
 第二項 補助金 金貳千圓  
 第三項 獎勵金 金四千圓  
 歲出合計金貳萬九千四百五拾圓

府第十三號議案 不動産寄付受領ノ件……………可決

東京府南多摩郡八王子町ノ内若ハ其ノ附近ニ於テ府ノ指定シタル場所

一土地參千六百坪

右南多摩郡八王子町有志總代谷合彌七外五名寄付

東京府南多摩郡八王子町字新町

一木造二階建瓦葺 一棟

此建坪貳拾八坪 四棟

一木造平家建生子板葺

此建坪百拾參坪 二棟

一木造平家建生子板葺



此建坪七坪

一木造平家建板葺

一棟

此建坪三十四坪

附屬渡廊下二十五坪并戸二ヶ所實習工場用煉瓦竈及流場煙突表門木柵三十九間据付體操器械二個樹木大小百本

右私立八王子織染學校設立者向山忠次郎外五名寄付

右府立織染學校敷地及建物トシテ寄付ノ義前記ノ者ヨリ出願ニ付受領スルモノ

トス

(原案説明) 織染學校ハ從來私立團體ノ設立ニ係リ國庫及府ヨリ補助ヲ受ケ之ヲ維持セシモ近時實業教育ノ發達ニ伴ヒ諸般ノ設備ニ改善ヲ加ヘ以テ本校設立ノ目的ヲ完フセシメントスルニ方リ一小團體ノ資力到底其ノ目的ニ副フ能ハサルヲ以テ現在ノ校舍校具及將來建築ノ用ニ供スヘキ敷地ヲ府ニ寄付ノ義出願セリ然ルニ實業教育ノ發達ヲ圖リ斯業ノ改良ニ資セントスルハ目下ノ急務ナルヲ以テ其ノ出願ヲ採納シ將來府立學校トシテ之ヲ繼續維持セントスルニ由ル

府第十四號議案 不動産買受ノ件……………可決

東京市牛込區加賀町一丁目一番地

一市街宅地三千六百二十九坪九合二勺

此代金五萬九千八百九拾參圓六拾八錢 但一坪ニ付金拾六圓五拾錢

一建 物 十九棟

此建坪五百三十八坪六合三勺一才

外ニ門板扉樹木周圍下水周圍石垣周圍土手其ノ他現在ノ儘

此代金壹萬百六圓參拾貳錢

合計金七萬圓

右東京府立第四中學校敷地トシテ買受クルモノトス

(原案説明) 府立第四中學校々舎ノ改築ニ伴ヒ敷地ノ購入ヲ要スルニ由ル

府第十五號議案 不動産賣却ノ件……………可決

東京市牛込區加賀町一丁目一番地

一建 物 十六棟

此建坪五百九坪八合七勺一才

第五章 府會の行動 明治三十五年の府會



此豫定價格金七千圓

東京市麴町區飯田町五丁目八番地

一建 物

三 棟

此建坪八十七坪九合二勺

此豫定價格金千參百貳拾貳圓五拾貳錢

右不用ニ屬スルヲ以テ賣却スルモノトス

(原案説明) 府立第四中學校々舎改築敷地トシテ買收スヘキ土地ニ現在スル建物ノ内門番所一棟倉庫二棟ヲ存シ其ノ他ハ不用ニ屬スルト本校々舎改築ニ伴ヒ舊校舎ノ内不用ニ屬スル建物アルトヲ以テ之ヲ賣却セントスルニ由ル

府第十六號議案 明治三十五年度東京府歳入歳出追加豫算書…可 決

歳 入

經常部

第四款 市 郡 分 賦 額 金五千五百貳拾六圓六拾錢五厘

第一項 市 郡 分 賦 額 金五千五百貳拾六圓六拾錢五厘

經常部合計金五千五百貳拾六圓六拾錢五厘

歳入總計金五千五百貳拾六圓六拾錢五厘

歳 出

經常部

第六款 教 育 費 金六千六百圓

第九項 第三高等女學校費 金貳千八百圓

備品費

第十項 學 事 諸 費 金參千八百圓

第九款 勸 業 費 金壹萬貳千八百八拾參圓拾四錢

第一項 勸 業 會 費 金壹萬壹千百五拾八圓拾四錢

第五回内國勸業博覽會事務費

第三項 森 林 經 營 費 金千七百貳拾五圓

造林事業費

經常部合計金壹萬九千四百八拾參圓拾四錢

歳出總計金壹萬九千四百八拾參圓拾四錢

(原案説明) 歳入ノ歳出ニ對スル不足金ハ既往ノ歳入超過金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス



府第十七號議案 明治三十五年度東京府小學校教員恩給金

歲入歲出追加豫算書……………可決

歲入

第一款 小學校教員恩給金 金貳千參百圓

第三項 府費補充金 金貳千參百圓

歲入合計金貳千參百圓

歲出

第一款 小學校教員恩給金 金貳千參百圓

第一項 恩給金 金貳千參百圓

歲出合計金貳千參百圓

府第十八號議案 自明治三十五年度東京府土木費繼續年期及

至明治三十六年度 支出方法……………可決

一金拾九萬七千六百參拾四圓貳錢六厘 治水堤防費

內譯

金九萬六千參百拾八圓參拾貳錢貳厘 明治三十五年度支出額

內

金貳萬參千參百七拾八圓五拾五錢四厘 河岸修繕費

金七萬貳千九百參拾九圓七拾六錢八厘 堤防修繕費

金拾萬千參百拾五圓七拾錢四厘 明治三十六年度支出額

內

金貳萬九千九百貳拾參圓四拾八錢壹厘 河岸修繕費

金七萬千參百九拾貳圓貳拾貳錢參厘 堤防修繕費

右ハ本年八月九月ノ交非常出水ノ爲河岸及堤防ノ破壞甚シキヲ以テ之カ復舊工  
事ヲ要スルトコロ本年度内ニ於テ之カ竣工ヲ見ルハ頗ル困難ナルニ依リ之ヲ繼  
續事業ト爲シ其ノ竣成ヲ期セントス

府第十九號議案 明治三十五年度東京府歲入歲出追加豫算書……………可決

歲入



經常部

第四款 市郡分賦額 金八萬七千五百貳拾圓七拾參錢六厘

第一項 市郡分賦額 金八萬七千五百貳拾圓七拾參錢六厘

經常部合計金八萬七千五百貳拾圓七拾參錢六厘

歲入總計金八萬七千五百貳拾圓七拾參錢六厘

歲出

經常部

第三款 土木費 金五萬四百拾貳圓拾壹錢八厘

第二項 治水堤防費 金四萬九千九百六拾七圓拾壹錢八厘

本年八月九月ノ兩度非常出水ノ爲河岸及堤防破壞甚シキニ付復舊工事費

第三項 測量費 金四百四拾五圓

經常部合計金五萬四百拾貳圓拾壹錢八厘

臨時部

第一款 土木費 金參百貳拾九圓五拾錢

第二項 治水堤防費 金參百貳拾九圓五拾錢

第八款 土木費本年度支出額 金九萬六千參百拾八圓參拾貳錢貳厘

第一項 治水堤防費 金九萬六千參百拾八圓參拾貳錢貳厘

臨時部合計金九萬六千六百四拾七圓八拾貳錢貳厘

歲出總計金拾四萬七千五拾九圓九拾四錢

府第二十號議案 明治三十六年度東京府歲入歲出追加豫算書…可 決

歲入

經常部

第四款 市郡分賦額 金八萬六千四百四圓九拾五錢四厘

第一項 市郡分賦額 金八萬六千四百四圓九拾五錢四厘

經常部合計金八萬六千四百四圓九拾五錢四厘

臨時部

第二款 財產賣拂代 金參萬七千六百六拾參圓七拾五錢

第一項 不動產賣拂代 金參萬七千六百六拾參圓七拾五錢

府廳舍敷地中不用ノ分千五百六坪五合五勺賣却代



臨時部合計金參萬七千六百六拾參圓七拾五錢  
歲入總計金拾貳萬四千六拾八圓七拾錢四厘

經常部

第三款 土木費 金參百參拾貳圓

第二項 治水堤防費 金參百參拾貳圓

第四款 府吏員費 金千九拾六圓

第一項 吏員費 金千九拾六圓

非常出水ノ爲破壊セシ道路堤防橋梁等ノ復舊工事ニ要スル臨時吏員費  
經常部合計金千四百貳拾八圓

臨時部

第三款 教育費 金貳萬千參百貳拾五圓

第二項 女子師範學校費 金貳萬千參百貳拾五圓

教室其他建築費

第九款 土木費本年度支出額 金拾萬千參百拾五圓七拾錢四厘

第一項 治水堤防費本年度支出額 金拾萬千參百拾五圓七拾錢四厘

府第十八號議案ノ本年度割受額

臨時部合計金拾貳萬貳千六百四拾圓七拾錢四厘

歲出總計金拾貳萬四千六拾八圓七拾錢四厘

府第二十一號議案 不動産賣却ノ件……………可決

東京市麴町區有樂町二丁目府廳舍敷地ノ内

一坪數千五百六坪五合五勺

此豫定價格金參萬七千六百六拾參圓七拾五錢 但一坪ニ付金貳拾五圓

右不用ニ屬スルヲ以テ賣却スルモノトス

府第二十二號議案 不動産買受ノ件……………可決

東京市小石川區久堅町二十二番地

一市街宅地貳百四拾坪

同 市同 區同 町二十三番地



一市街宅地八百八拾四坪

此代金壹萬參千四百八拾八圓 但一坪ニ付金拾貳圓

右地所東京府女子師範學校敷地トシテ買受クルモノトス

(原案説明) 附屬小學校ノ改築及幼稚園ノ新設ニ伴ヒ校地ヲ擴張スルノ必要アルニ由ル

明治三十四年度東京府歳入歳出決算書……………承認

市内ニ府立商業學校ヲ建設スル建議案……………可決

(建議の概要) 本府に於ける中等普通教育の設備は、略ぼ完備してゐるが、實業教育に至つては、府立織染學校の外、市部經濟に於て一の職工學校を有するに過ぎない。抑も本府は、全國の首都たると共に商業の中心地として、將來益々之が改善發達を圖かり、他府縣の模範たることを期さねばならぬから、經濟の緩急を斟酌して、東京市内に、中等程度の府立商業學校を建設するの計畫を樹て發案せられたい。尙ほ其の實現に際しては、築地三丁目元中學校敷地を該校敷地に充つることゝすれば、事業進捗上極めて便宜と信する旨、知事に意見書を呈出するので、建議案は多數を以て可決した(議員西澤善七發議)。

郡部ニ府立農學校ヲ建設スル建議案……………可決

(建議の概要) 實業教育の發達獎勵を圖るのは、目下の急務と考へる。然るに、府下農業者の實狀を通觀するに、兎角舊慣に泥み、科學的知識の研鑽應用を度外視するの傾向があるのは遺憾に堪へぬ。仍て、郡部に中等程度の農學校を設置し、農業に必須なる技能を授くるの施設をなすは、最も機宜を得たる措置と信するから、財政の狀況等を參酌して、適當の發案を希望する旨、知事に意見書を呈出するので、建議案は多數を以て可決した(議員谷岡慶治發議)。

通常市部會

本會は、明治三十五年十一月十七日午後二時三十八分に開議し、會議七日間に涉り、十二月四日午後三時四十七分議事終了散會した。

副議長岩出惣兵衛は、議長の職務を執り先づ會議の同意を得て、會議録署名議員に伊坂半九郎渡邊友次郎を選定し、次に、市部會議長補闕選舉の投票を行つて、齋藤孝治が當選した。



而して齋藤議長は、就任の挨拶を述べ、直ちに議事を進めた。

この會議に於て、特筆を要する事項は、府税を東京市に分賦せんとする諮問案と、市部警察制度改善に關する繼續費議案の二件である。

府税を東京市に分賦の件は、説明書及理事者の辯明に依れば、明治三十二年勅令第三百十六號第二條、市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其市部ニ屬スル部分ヨリ徴收スヘキ額ヲ市ニ分賦スルコトヲ得」といふ規定に基いたもので、從來は、市部會の議決を經、賦課規則及課目課額を定めて納稅義務者に賦課し、區長をして徴收せしめたのであるが、徴稅事務が頗る繁雜に渉るから之を避くる爲めと又市に分賦する方法に改むれば、獨り府のみならず各區に於ても亦相當徴稅事務費を減することが出来る。殊に、三部制施行の京都大阪愛知廣島兵庫等の各府縣に於ては、既に孰れも市に分賦する方法を採り、現在この方法を採らざるは獨り我が東京府のみである。旁々本府に於ても自今此分賦の方法に改め、三十七年度より施行したいといふ趣旨で、諮問案を發せられた次第である。

然るに、この諮問案は最初から議員の間に難色があり、即座に諮問に不同意の旨議決せんとする説もあつたが、少數の爲め成立せず、兎も角も七名の調査委員を設けて調査することとなり、委員會に於ては、秦源祐が委員長となり調査した結果、現行の賦課方法は明治十二年府會創始以來馴致し來つた慣行制規であつて、未だ之を廢止するの時期に至らざるものと認むるから、諮問の趣旨には不同意の旨答申すべきものと決定したので、會議に於ても、この委員會決定の通諮問案に不同意の旨答申議決した。

次に、警察制度改善に關する繼續費案は、菅井警視の説明に依れば、市部警察制度を擴張刷新するの計畫を樹て、第一には、巡查八百名を増員することとし、先づ以て三十六年度に於て百名を増員し、第二には、漸次に警察分署七十個所を設け、第三には、消防分遣所を増設するといふ大體三項である。第一の巡查に就ては、明治二十七年の市部會で定員を二千四百三十三人と議決してから格別の増員をして居らぬ。其當時巡查一人の受持人口は、五百三十五人であつたのが、今日に於ては六百三十三人に増加し、到底警察事務の完全なる處理を期し難い状態に立至つたので、頻繁に非番巡查を召集する實況である。因てこの際巡查を増員して、從來の二部勤務制を三部勤務制に改め、以て警察事務の敏活周到を圖らんとするのである。第二の分署七十署を増設するのは、分署の權限を擴張して本署と同一にし、事務を



圓滑に處理せんとするのである。第三は從來消防派出所六ヶ所なりしを十二ヶ所とし消防組員派出所八十ヶ所を増設し從來の分遣所百二十ヶ所を、二十五ヶ所に減せんとするのである。

この計畫に基いた明治三十六年度乃至同四十年年度警察廳舎建築費繼續年期及支出方法(金貳拾五萬四千四百參拾貳圓)と、この計畫に關聯した増加金額を包含する三十六年度通常豫算の警察費とが提案されたのである。繼續費案は、五名の委員に附託調査の結果、委員は、警察制度の刷新を圖るは刻下の急務なるを以て、五ヶ年の繼續支出にては緩漫に失するものとし、三ヶ年繼續に短縮する修正意見を議決して本會に報告したが、本會に於ては、其の必要なしとして原案を可決し、且つ、通常豫算の警察費も總て原案に可決した。斯くて、この會に於ける重要問題たる、警察制度改善擴張の計畫は、圓滿に市部會の協賛を得たのである。

議案 附諮問案建議案

第一號議案部	自明治三十六年度東京府市部警察廳舎建築費繼續年期	可決
第二號議案部	及支出方法	可決
	明治三十六年度東京府市部歳入歳出豫算書	修正

第三號議案部	明治三十六年度東京府市部營業稅雜種稅課目課額	修正
第四號議案部	明治三十六年度東京府市部請願巡查費徵收額	可決
第五號議案部	明治三十六年度東京府市部學資金歳入豫算書	可決
第六號議案部	明治三十六年度東京府市部巡查給助資金歳入歳出豫算書	可決

第七號議案部	不動産賣却ノ件	可決
第八號議案部	東京府市部ニ屬スル府稅賦課規則改正ノ件	可決
第九號議案部	明治三十五年度東京府市部歳出追加豫算書	可決
第十號議案部	明治三十五年度東京府市部歳入歳出追加豫算書	可決
第十一號議案部	明治三十五年東京府市部追加家屋稅賦課方ノ件	可決
第十二號議案部	明治三十六年度東京府市部歳入歳出追加豫算書	可決
諮問市第一號	府稅ヲ東京市ニ分賦ノ件	答申議決
	明治三十四年度東京府市部歳入歳出決算書	承認
	電話稅新設ノ建議案	可決
	家屋稅率改正ニ關スル建議案	否決



前年來市部會ニ於テ議決セル諸建議實行促進ニ關スル調査委員設置ノ建議案……………可決

議決摘要

市部 第一號議案 自明治三十六年度至明治四十年度東京府市部警察廳舍建築費繼續年期及支出方法……………可決

一金貳拾五萬四千四百參拾貳圓

警察分署消防組員派出所其他建築費

內

金四萬九千九百八拾五圓

明治三十六年度支出額

金四萬七千六百六拾八圓

明治三十七年度支出額

金五萬參百六拾七圓

明治三十八年度支出額

金五萬參百六拾七圓

明治三十九年度支出額

金五萬六千四拾五圓

明治四十年度支出額

右ハ警察及消防組織ノ變更ヲ要スルニ依リ從來ノ巡查派出所消防組詰所水管派出所ヲ廢シ更ニ警察分署立交番所消防派出所消防組員派出所ノ建築及之ニ伴フ

電話並非常報知機ノ建設ヲ爲サントスルニ在リ而シテ工事ノ施行ト經濟ノ如何トヲ斟リ之ヲ五箇年ノ繼續事業トシテ其ノ竣成ヲ期セントス

市部 第二號議案 明治三十六年度市部歲入歲出豫算書……………修正

歲入

經常部

第一款 地租 割 金拾參萬五千四百六拾七圓

第一項 地租 割 金拾參萬五千四百六拾七圓 (地租二分)

第二款 營業稅 金六萬七千七百參拾八圓拾四錢

第一項 商業稅 金參萬八千五百參圓六錢

第二項 工業稅 金貳萬九千貳百參拾五圓八錢

第三款 雜種稅 金參拾七萬貳百拾圓貳拾參錢八厘

(修正)金參拾八萬千八百拾參圓四拾參錢八厘

第三項 車稅 金拾貳萬四千五百四拾五圓貳拾錢

(修正)金拾貳萬八千八百七拾六圓四拾錢



(修正理由) 課目課額ニ於テ營業人力車年稅四拾錢ヲ五拾錢ニ修正ノ結果ニ由ル  
第二項 西洋形船稅 金參萬五千參百七拾參圓五錢

(修正) 金四萬貳千六百四拾五圓五錢

(修正理由) 課目課額ニ於テ稅額修正ノ結果ニ由ル

第四款 營業稅附加稅 金拾五萬參千五百六拾九圓貳拾五錢

第一項 營業稅附加稅 金拾五萬參千五百六拾九圓貳拾五錢  
(國稅額ノ十分ノ一・五)

第五款 家屋稅 金參拾貳萬七千五百貳拾圓七拾七錢八厘

第一項 家屋稅 金參拾貳萬七千五百貳拾圓七拾七錢八厘  
(二個ニ付貳錢六厘)

第六款 財產收入 金千圓

第一項 財產收入 金千圓

第七款 國庫下渡金 金參拾六萬六千七百參拾七圓拾七錢

第一項 警察費下渡金 金參拾六萬六千七百參拾七圓拾七錢

第八款 雜收入 金拾壹萬五千九百九拾五圓八錢九厘

第九款 市郡連帶市部收入額 金拾四萬五千五百拾六圓八拾五錢參厘

第一項 市郡連帶市部收入額 金拾四萬五千五百拾六圓八拾五錢參厘

經常部合計金百六拾七萬九千七百五拾四圓五拾壹錢八厘

(修正) 金百六拾九萬千參百五拾七圓七拾壹錢八厘

臨時部

第一款 繰越金 金百圓

第一項 前年度繰越金 金百圓

第二款 國庫補助金 金九千參百貳拾五圓貳拾貳錢四錢

第一項 傳染病豫防費補助金 金貳百參圓四拾六錢七厘

第二項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金千六百六拾六圓六拾六錢七厘

第三項 教育費補助金 金貳千五百圓

第四項 警察費補助金 金四千八百四拾五圓拾七錢八厘

第五項 警察廳舍建築修繕費補助金 金百九圓九拾壹錢貳厘

第三款 財產賣拂代 金貳萬七百五拾五圓七拾五錢

第一項 不動產賣拂代 金貳萬七百五拾五圓七拾五錢

臨時部合計金參萬百八拾圓九拾七錢四厘

歲入總計金百七拾萬九千九百參拾五圓四拾九錢貳厘



(修正)金百七拾貳萬千五百參拾八圓六拾九錢貳厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金八拾九萬六千九百九拾圓九拾參錢

第一項 俸給及諸給 金六拾七萬貳千八百八拾七圓五拾四錢

巡查二千六百五十六人月俸拾四圓此金四拾四萬六千貳百八圓書記百八十四

人月俸拾參圓此金貳萬八千七百四圓巡查宿料二千六百五十六人分月額貳圓

此金六萬參千七百四拾四圓諸備給(消防)七萬九千四百七拾六圓參拾九錢其他

手當旅費惠與巡查救助等

第二項 廳費 金貳拾貳萬四千八百參圓參拾九錢

第二款 警察廳舍修繕費 金四千四百六拾六圓六錢

第一項 修繕費 金四千四百六拾六圓六錢

第三款 衛生及病院費 金參千六百九拾四圓八拾錢

第一項 衛生諸費 金千貳百貳拾圓八拾錢

第二項 檢費 金貳千四百七拾四圓

第四款 教育費 金壹萬四千六拾六圓六拾四錢

第一項 職工學校費 金壹萬四千六拾六圓六拾四錢

第五款 府吏員費 金貳千六百八拾五圓

第一項 吏員費 金貳千六百八拾五圓

(原案説明)本年度ニ於テ此豫算ヲ設クルハ府費取扱費ヨリ事務費ヲ分割シテ別ニ一款ヲ設クルヲ適當ト認メタルニ由ル

第六款 財産費 金參拾七圓五拾錢

第一項 管理費 金參拾七圓五拾錢

第七款 府費取扱費 金千六百九拾圓

第一項 徵收費 金千六百九拾圓

第八款 豫備費 金壹萬八千圓

第一項 豫備費 金壹萬八千圓

第九款 市郡分賦市部負擔額 金六拾七萬九百四拾五圓貳拾七錢五厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金六拾七萬九百四拾五圓貳拾七錢五厘

經常部合計金百六拾壹萬貳千五百七拾六圓貳拾錢五厘



臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金參萬參千九百八圓貳錢五厘

第一項 建築費 金參萬參千九百八圓貳錢五厘

第二款 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬圓

第三款 警察廳舍建築費本年度支出額 金四萬九千九百八拾五圓

第一項 警察分署消防組員派出所 金四萬九千九百八拾五圓

臨時部合計金九萬參千八百九拾參圓貳錢五厘

歲出總計金百七拾萬六千四百六拾九圓貳拾參錢

市部 第三號議案 明治三十六年度東京府市部營業稅雜種稅課目

課額.....修正

營業稅

一 商業

第一類

物品販賣業・賣藥請賣及行商ヲ除クノ金錢貸付業・兩替業・運送業・運河業・土木請負業・勞力請負業・旅人宿業・木賃宿業・下宿業・信立業・信買業・代辦業

第二類 賣藥請賣及行商

個數一個ニ付 年稅 金貳錢  
請賣藥方一方ニ付 同 金四錢  
行商鑑札一枚ニ付 同 金拾錢

雜種稅

一 雇人請宿

年稅 金壹圓

一 市場

深川區東京米穀問屋市場

年稅 金五圓

一 車

營業人力車

年稅 〔金四拾錢〕  
〔金五拾錢〕ト修正

(修正理由) 他稅トノ權衡上増額スルヲ適當ト認ムルニ由ル(議員伊坂半九郎動議)

荷積大車 荷臺ノ平方尺積十  
四坪以上ノモノ 同 金貳圓

同 小車 荷臺ノ平方尺積十  
四坪未滿ノモノ 同 金壹圓貳拾錢

一 採藻

海苔採

一 等 海面百坪ニ付 年稅 金七拾錢

第五章 府會の行動 明治三十五年の府會 四五七



二等 海面百坪ニ付 年稅 金五拾五錢

三等 同 同 金四拾錢

四等 同 同 金參拾錢

五等 同 同 金貳拾錢

一自轉車

營業 年稅 金貳圓

自用 同 金參圓

一西洋形船

蒸汽船機械船及客船 「一噸ニ付 年稅 金貳拾錢」

「河川ヲ航行スルモノニシテ乘客定員四十人以上ノ客船及其ノ曳船 一噸ニ付 年稅 金壹圓」

以上ニ該當セサル船 同 金貳拾錢「ト修正」

(修正理由) 原案ヲ適當ナラストスルニ由ル調査委員意見

風帆船及其ノ他ノ船 同 金拾五錢

一狩 獵 本稅 十分ノ二

一畜 犬 一頭ニ付 年稅 金壹圓

(原案説明) 課目課額中前年度ニ異ナルモノヲ擧ケレハ營業稅法中ノ改正ニ伴ヒ商業第一類ニ仲立業仲買業代辦業ヲ加フルト新ニ雇人請宿稅ヲ設ケ賣藥行商ニ對スル課稅標準ハ不當ノモノアルヲ以テ之ヲ改メ市場稅中米穀問屋市場ヲ低減シ探藻稅ハ賦課等級多キニ過ルヲ以テ實際ノ收入高ヲ標準トシテ之ヲ縮メタルト自用自轉車稅ハ他ノ權衡上之ヲ減額シ荷積大小車及西洋形諸船ハ郡部トノ權衡ヲ保タンカ爲狩獵稅ハ低ニ過クルカ爲之ヲ改ムルト畜犬ノ取締且稅源ニ供スル爲新ニ畜犬稅ヲ賦課セントスル等トス

市 第四號議案部 明治三十六年度東京府市部請願巡査費徵收額……可 決

一金貳拾壹圓八拾錢 市部巡査一人一ヶ月分

市 第五號議案部 明治三十六年度東京府市部學資金歲入豫算書……可 決

歲 入

第一款 學 資 金 金參百四拾參圓四拾七錢六厘

第一項 財 產 收 入 金參百四拾參圓四拾七錢六厘

歲入合計金參百四拾參圓四拾七錢六厘



市部 第六號議案 明治三十六年度東京府市部巡查給助資金歲入

歲出豫算書……………可決

歲入

第一款 巡查給助資金 金四萬六千六百四圓拾七錢貳厘

第一項 繰越金 金百圓

第二項 市部歲出繰入金 金參萬五千四百參拾圓拾五錢

第三項 財產收入 金壹萬千七拾四圓貳錢貳厘

歲入合計金四萬六千六百四圓拾七錢貳厘

歲出

第一款 巡查給助資金 金四萬六千六百四圓拾七錢貳厘

第一項 給助費 金四萬六千六百四圓拾七錢貳厘

歲出合計金四萬六千六百四圓拾七錢貳厘

市部 第七號議案 不動産賣却ノ件……………可決

東京市芝區愛宕町三丁目六番地三號

一 芝警察署建物 四棟

外ニ門柵板扉等

此豫定價格千參百貳拾四圓五拾錢

一 消防第二分署敷地ノ内五百八十四坪八合

此豫定價格壹萬七千五百四拾四圓 但一坪ニ付參拾圓

一同 署建物 四棟

外ニ門柵板扉火ノ見櫓等

此豫定價格八百九拾五圓七拾五錢

右賣却スルモノトス

市部 第八號議案 東京府市部ニ屬スル府稅賦課規則中改正ノ件……………可決

東京府市部ニ屬スル府稅賦課規則中左ノ通改ムルモノトス

第十五條第三號ニ左ノ但シ書ヲ加フ

但シ本府府稅ノ賦課ヲ受ケサル車ヲ使用スル者ヲ除ク

第十五條第四號勞力請負業ノ下ニ並製造業但シ製造業ニシテ一定ノ製造場アル

第五章 府會の行動 明治三十五年の府會 四六一



モノヲ除クノ二十五字ヲ加フ

第十八條第四號ノ甲ヲ左ノ如ク改ム

私立學校教場其ノ他專ラ學藝又ハ慈善ノ用ニ供スル建物ニシテ營利ノ目的ニアラサルモノ

附 則

此ノ改正ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

(原案説明) 本府府税ノ賦課ヲ受ケサル車ヲ使用スル者ニ運送業税ヲ課セントスルト婦女ノ雇人ヲ使用セスンテ製造業ヲ營ムモノヲ課税外ニ置カントスルト專ラ教育及慈善ノ用ニ供シ而カモ營利ノ目的ニアラサル建物ニ對シテハ家屋税ヲ賦課セサルヲ適當ナリト認メタルニ由ル

市 第九號議案部 明治三十五年度東京府市部歳出追加豫算書………可 決

歳 出

經 常 部

第七款 市郡分賦市部負擔額 金壹萬參千九百五拾六圓五拾參錢五厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金壹萬參千九百五拾六圓五拾參錢五厘

經常部合計金壹萬參千九百五拾六圓五拾參錢五厘

歳出總計金壹萬參千九百五拾六圓五拾參錢五厘

市 第十號議案部 明治三十五年度東京府市部歳入歳出追加豫算書………可 決

歳 入

經 常 部

第五款 家 屋 税 金拾萬九千七百壹圓七拾貳錢九厘

第一項 家 屋 税 金拾萬九千七百壹圓七拾貳錢九厘

(二個ニ付九厘)

經常部合計金拾萬九千七百壹圓七拾貳錢九厘

歳入總計金拾萬九千七百壹圓七拾貳錢九厘

歳 出

經 常 部

第七款 市郡分賦市部負擔額 金七萬五千圓五拾六錢九厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金七萬五千圓五拾六錢九厘

經常部合計金七萬五千圓五拾六錢九厘

歳出總計金七萬五千圓五拾六錢九厘



市部 第十一號議案

明治三十五年度東京府市部家屋稅賦課方ノ件……可決

明治三十五年度東京府市部追加家屋稅個數一箇ノ賦課ニ付テハ市部ニ屬スル府稅賦課規則第十七條及第二十條ヲ適用セス明治三十六年一月一日ノ現所有建物ヲ標準トシ個數ヲ定メテ其ノ所有者ニ賦課ス

市部 第十二號議案

明治三十六年度東京府市部歲入歲出追加豫算書……可決

歲入

經常部

第一款 地 租 割 金貳萬九千八百貳圓七拾五錢

第一項 地 租 割 金貳萬九千八百貳圓七拾五錢

第一款 市郡連帶市部收入額 金參萬六千五百參拾參圓八拾參錢八厘

第一項 市郡連帶市部收入額 金參萬六千五百參拾參圓八拾參錢八厘

經常部合計金六萬六千參百參拾六圓五拾七錢八厘  
歲入總計金六萬六千參百參拾六圓五拾七錢八厘

歲出

經常部

第九款 市郡分賦市部負擔額 金六萬五千四百拾八圓四拾九錢九厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金六萬五千四百拾八圓四拾九錢九厘

經常部合計金六萬五千四百拾八圓四拾九錢九厘

歲出總計金六萬五千四百拾八圓四拾九錢九厘

諮問市第一號 府稅ヲ東京市ニ分賦ノ件……答申議決

府費ノ内市部ニ屬スル部分ヨリ徵收スヘキ額ハ明治三十二年勅令第三百十六號

第二條ニ依リ明治三十七年度以降之ヲ東京市ニ分賦セントス

右其ノ會ノ意見ヲ問フ

(原案説明) 從來市部ニ屬スル府稅ハ市部會ノ議決ヲ經賦課規則及課目課額ヲ定メ納稅義務者ニ賦課シ區長ヲシテ徵收セシメシモ徵稅事務頗ル繁雜ニ涉ルヲ以テ之ヲ避ケントスルト府及市ニ於ケル經濟上ノ利益アルヲ認ムルトニ因リ之ヲ市ニ分賦セントスルニ在リ

(答申) 諮問案ノ通實行スルトキハ府費ニ於テ多少ノ事務費ヲ節減シ得ルモ明治十二年府會創始以來馴致シ來リタル慣行制規ニシテ未タ之ヲ廢止スルノ時期ニ



至ラサルモノト認ムルヲ以テ諮問ニ同意スル能ハス(調査委員意見 委員長秦源祐)

明治三十四年度東京府市部歳入歳出決算書……………承認

電話税新設ノ建議案……………可決

(建議の概要) 現今府費多端にして、之れが財源の缺乏に苦しむ折柄、電話税は、賦課の方法極めて簡易にして、収入の容易なる好個の一財源と認むるから、適當の調査を遂げて提案せられたいと、意見書を知事に提出するので、案は多數を以て可決した(議員伊坂半九郎發議)。

家屋税率改正ニ關スル建議案……………否決

(建議の概要) 現行の家屋税は、明治十七年度に始まり、同三十度に賦課方法を改正されたが、税目設定以來十有餘年間之を踏襲して今日に至つた。然るに、市區改正事業の進捗並に交通機關の整備に伴ひ、市内各地の狀勢に激變を來たし、從來の賦課方法は、極めて適當でない結果となつたから、此際調査の上、賦課規則改正案を提出せられたいと、知事に意見書を呈出するのであるが、案は少數の爲否決となつた(議員伊坂半九郎發議)。

前年來市部會ニ於テ議決セル諸建議實行促進ニ關スル調査

委員設置ノ建議案……………可決

(建議の概要) 第一、明治三十三年通常市部會に於て決議せる衛生組合廢止に關する建議、第二、同三十四年の通常市部會に於て決議せる庭園税賦課に關する建議、第三、府立職工學校の程度を高め附屬徒弟學校を増設するの建議に對し、今日に至るも何等其の結果の發表を見ない。仍て理事者の措置を調査するため、調査委員七名を設置して調査せしめんとする建議、議員谷崎安太郎發議が可決され調査委員が設けられた。其の調査報告は次の通りである。

- 一 衛生組合設置ノ現況ハ全市千四百三十一町中千五十四町ハ該組合ヲ設立シ傳染病豫防其他ニ關シ相當ノ成績ヲ擧ケツツアルノミナラス目下尙改善ノ方法ヲ考慮中ナレハ暫ラク時日ヲ假サレンコトヲ理事者ニ於テ希望シタルヲ以テ委員ハ現狀ニ於テ廢止ヲ至當ト信スルモ更ニ三十六年ノ通常會迄一ケ年間改善期間ヲ猶豫シ當局者ノ措置ヲ待ツコトトセリ
- 二 庭園税ニ就テハ當局ハ折角調査中ニシテ未タ決定ノ時期ニ達セサルモノ



ト認ムルニ付三十六年ノ通常會迄猶豫スルコトニ決シタリ

三 府立職工學校ノ程度ヲ高メ附屬徒弟學校ヲ増設スル件ハ(一)今後四ヶ月間ニ調査ヲ完了スルコト(二)工業教育ニ對スル根本的基礎ヲ定ムルコト(三)調査ハ一個人ニ囑託セス充分ナル調査會ヲ設クルコト但之カ爲メ調査費ヲ増額スルハ異議ナキコト(四)調査結了ノ上ハ臨時會ヲ招集提案セラレタキコトトシタリ

この委員の調査報告に對し、其の第一、第二の二項は之を承認し、第三項に對しては別に議員杉原榮三郎から、工業學校ノ設立ニ付テハ其時機ヲ見テ調査提案アラシコトヲ望ム」といふ決議案を提出し、多數を以て可決した。

通常郡部會

本會は、明治三十五年十一月十七日午後二時五十六分に開議し、會議三日間に涉り、十二月四日午後四時十六分に散會した。

谷岡議長は、會議の同意を得て、會議録署名議員に中里民平、井上吉之助を選定した。

十二月四日の會議に於て、府參事會員補充員四名の補關選舉を行ひ、秋本喜七、林副重、關根保太郎、吉田金太郎が、この順位を以て當選した。

議案 附諮問案

第一號 議案部	自明治三十六年度 至明治三十八年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方 法……………	可決
第二號 議案部	明治三十六年度東京府郡部歳入歳出豫算書……………	可決
第三號 議案部	明治三十六年度東京府郡部營業稅雜種稅課目課額……………	修正
第四號 議案部	郡部ニ屬スル府稅賦課規則中改正ノ件……………	可決
第五號 議案部	明治三十六年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………	可決
第六號 議案部	明治三十六年度東京府郡部恩賜金歳入歳出豫算書……………	可決
第七號 議案部	明治三十七年度東京府郡部巡查給助資金歳入歳出 豫算書……………	可決
第八號 議案部	積立金ノ設置及處分ニ關スル件……………	可決
第九號 議案部	明治三十六年度東京府郡部蓄積金歳入豫算書……………	可決
第十號 議案部	明治三十五年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………	可決



郡部 第十一號議案 明治三十五年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……………可決

郡部 第十二號議案 明治三十五年度東京府郡部追加地租割賦課方ノ件……………可決

郡部 第十三號議案 明治三十六年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……………可決

郡部 第一號部 府費補助道及町村費支辨道ヲ府費支辨道ニ編入ノ件……………答申議決

郡部 第二號部 町村費支辨道ヲ府費補助道ニ編入ノ件……………答申議決

郡部 第三號部 府費支辨道及府費補助道變更並府費支辨道延長ノ件……………答申議決

明治三十四年度東京府郡部歲入歲出決算書……………承認

議決摘要

第一號部 自明治三十六年度東京府郡部土木費繼續年期及支  
至明治三十八年度  
出方法……………可決

一金參萬貳千百六拾四圓

道路橋梁費中道路改修費

內譯

金五千圓 明治三十六年度支出額  
金壹萬千圓 明治三十七年度支出額

金壹萬六千百六拾四圓 明治三十八年度支出額

右ハ厚木街道ノ改修ニ要スルモノニシテ同街道ハ東京市ヨリ豊多摩郡荏原郡等  
ヲ經テ神奈川縣下厚木町ニ達スル要路ナルモ坂路急峻屈曲甚シク且幅員狹隘ニ  
シテ交通不便ナルヲ以テ之カ改修ヲ施サントスルニ在リ而シテ工事ノ施行ト經  
濟ノ如何トヲ斟リ之ヲ三箇年ノ繼續事業トシテ其ノ竣成ヲ期セントス

郡部 第二號議案 明治三十六年度東京府郡部歲入歲出豫算書……………可決

歲入

經常部

第一款 地租 割 金拾八萬參千六百九圓

第一項 地租 割 金拾八萬參千六百九圓  
(地租ノ二分)

第二款 營業稅 金貳萬四千九拾八圓參拾錢

第一項 商業稅 金壹萬七千五百六拾五圓參拾錢

第二項 工業稅 金六千五百參拾參圓

第三款 雜種稅 金拾四萬四拾六圓參拾九錢



第四款 營業稅附加稅 金貳萬七百六拾四圓  
 第一項 營業稅附加稅 金貳萬七百六拾四圓  
(國稅額の十分ノ二)  
 第五款 家屋稅 金六萬七千四百七拾四圓九拾貳錢  
 第一項 家屋稅 金六萬七千四百七拾四圓九拾貳錢  
(二個ニ付六錢)  
 第六款 戶數割 金拾參萬貳千八拾九圓拾貳錢  
 第一項 戶數割 金拾參萬貳千八拾九圓拾貳錢  
(二戶ニ付壹圓七拾貳錢)  
 第七款 財產收入 金四拾七圓參拾錢  
 第一項 不動產收入 金四拾七圓參拾錢  
 第八款 國庫下渡金 金六萬七千八百六拾四圓拾貳錢貳厘  
 第一項 警察費下渡金 金六萬七千八百六拾四圓拾貳錢貳厘  
 第九款 雜收入 金五萬貳千四百四拾四圓參拾六錢九厘  
 第十款 市郡連帶郡部收入額 金貳萬五千七拾壹圓六拾四錢  
 第一項 市郡連帶郡部收入額 金貳萬五千七拾壹圓六拾四錢  
 經常部合計金七拾壹萬參千貳百九圓拾六錢壹厘  
 臨時部

第一款 繰越金 金壹萬圓  
 第一項 前年度繰越金 金壹萬圓  
 第二款 國庫補助金 金貳千九百八拾六圓參拾錢八厘  
 第一項 傳染病豫防費補助金 金百八拾六圓參拾錢八厘  
 第二項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金五百圓  
 第三項 農事試驗場補助金 金貳千參百圓  
 臨時部合計金壹萬貳千九百八拾六圓參拾錢八厘  
 歲入總計金七拾貳萬六千九拾五圓四拾六錢九厘  
 歲出

第一款 警察費 金拾七萬六千六百六拾貳圓六拾壹錢四厘  
 第一項 俸給及諸給 金拾參萬九千貳百八拾六圓六拾五錢  
 巡查五百八十四人月俸拾四圓此金九萬八千百拾貳圓書記七十九人月俸拾參圓此金壹萬貳千參百貳拾四圓巡查宿料五百八十四人分月額壹圓參拾五錢此金九千四百六拾圓八拾錢其他手當旅費給與惠與諸備給巡查給助等



第二項 廳 費 金參萬六千八百七拾五圓九拾六錢四厘

第二款 警察廳舍修繕費 金千四百貳拾參圓六拾九錢

第一項 修繕費 金千四百貳拾參圓六拾九錢

第三款 土木費 金拾四萬八千七百七拾五圓九拾四錢貳厘

第一項 道路橋梁費 金拾參萬九千貳百七拾八圓九拾壹錢五厘

第二項 治水堤防費 金九千四百九拾七圓貳錢七厘

第四款 衛生及病院費 金參千七百壹圓八拾五錢

第一項 衛生諸費 金千百拾七圓八拾五錢

第二項 檢黥費 金貳千五百八拾四圓

第五款 郡廳舍修繕費 金七百八拾五圓

第一項 修繕費 金七百八拾五圓

第六款 郡役所費 金四萬參千貳百拾壹圓貳拾錢

第一項 俸給及諸給 金參萬五千四百六拾四圓八拾錢

書記九十一人月俸拾八圓此金壹萬九千六百五拾六圓視學八人月俸參拾六圓  
此金參千四百八拾圓其他雇員給旅費退官賜金死亡賜金惠與諸備給等

第七款 救育費 金七千七百四拾六圓四拾錢

第一項 救助費 金千八拾八圓九拾貳錢壹厘

第八款 諸達書及揭示諸費 金拾六圓

第一項 令達諸費 金拾六圓

第九款 勸業費 金壹萬千八百六圓拾七錢八厘

第一項 農事試驗場費 金六千四百四拾參圓八拾五錢

第二項 農事試驗場第一分場費 金貳千八百參圓八拾八錢八厘

第三項 農事試驗場第二分場費 金貳千六百八拾八圓參拾八錢

第四項 勸業諸費 金百七拾圓六錢

第十款 府費取扱費 金壹萬八千百貳圓

第一項 徵收費 金壹萬八千百貳圓

第十款 府吏員費 金參千九百拾五圓

第一項 吏員費 金參千九百拾五圓

(原案説明) 本年度ニ於テ此ノ豫算ヲ設クルハ府費取扱費ヨリ分割シテ別ニ一欸ヲ設クル



ノ適當ナルヲ認メタルニ由ル

第三款 財產費 金六圓

第一項 管理費 金六圓

第三款 豫備費 金七千圓

第一項 豫備費 金七千圓

第四款 市郡分賦郡部負擔額 金貳拾萬貳千百七拾貳圓七拾四錢八厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金貳拾萬貳千百七拾貳圓七拾四錢八厘

經常部合計金六拾壹萬八千六百六拾七圓拾四錢參厘

臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金貳百七拾圓

第一項 建築費 金貳百七拾圓

第二款 土木費 金五萬百貳圓拾七錢六厘

第一項 道路橋梁費 金四萬四千九百七圓九拾四錢五厘

第二項 治水堤防費 金五千百九拾四圓貳拾參錢壹厘

第三款 郡市町村土木補助費 金貳萬六千七百拾參圓五拾八錢

第一項 道路橋梁費補助 金壹萬八千貳拾貳圓五錢四厘

第二項 治水堤防費補助 金五百八拾五圓五拾貳錢六厘

第三項 埤樋費補助 金八千百六圓

第四款 衛生及病院補助費 金貳千參百八拾六圓

第一項 病院補助費 金貳千參百八拾六圓

第五款 市町村傳染病豫防補助費 金參千圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金參千圓

第六款 郡廳舍建築費 金百九拾八圓

第一項 建築費 金百九拾八圓

第七款 勸業費 金參百拾六圓六拾錢

第一項 農事試驗場費 金貳百九拾參圓六拾錢

第二項 農事試驗場第一分場費 金貳拾參圓

第八款 勸業補助費 金參千五拾圓

第一項 勸業補助費 金參千五拾圓

第九款 町村警備補助費 金百拾圓

第五章 府會の行動 明治三十五年の府會



第一項 町村警備補助費 金百拾圓

第十款 土木費本年度支出額 金壹萬八千參百五拾八圓八錢六厘

第一項 道路橋梁費本年度支出額 金壹萬八千參百五拾八圓八錢六厘

臨時部合計金拾萬四千五百四圓四拾四錢貳厘

歲出總計金七拾貳萬貳千六百七拾壹圓五拾八錢五厘

郡第三號議案部 明治三十六年度東京府郡部營業稅雜種稅課目

課額.....修正

營業稅

- 一 商業
  - 第一類 物品販賣業(賣藥請賣及行商ヲ除ク) 年稅 賣上收入金高千分ノ五
  - 第二類 金錢貸付業 同 營業收入金高百分ノ五
  - 物品貸付業 同 營業收入金高百分ノ五
  - 兩替業 同 營業收入金高百分ノ四
  - 第三類 運送業 同 營業收入金高百分ノ四
  - 第四類 土木請負業 同 請負收入金高百分ノ四
  - 勞力請負業 同 請負收入金高百分ノ四
  - 第五類 旅人宿業 同 營業收入金高百分ノ五
  - 木賃宿業 同 營業收入金高百分ノ五

第六類 仲立業 代辦業

同 報償金高百分ノ二

第七類 賣藥請賣及行商

請賣藥方 一方ニ付 同 金四錢  
行商鑑札 一枚ニ付 同 金拾錢

雜種稅

一 雇人請宿

年稅 報償金高百分ノ二

一 遊藝師匠(割註省略)

一 等 荏原郡品川町・豐多摩郡内藤新宿町・北豐島郡南千住町  
同郡王子村・南足立郡千住町・南葛飾郡隅田村・同郡寺  
島村・南多摩郡八王子町

月稅 金五拾錢

二 等 一 等ニ揭ケサル町村

同 金貳拾錢

一 遊藝稼人(割註省略)

月稅 金參拾錢

一 市場

荏原郡入新井村八幡魚市場

月稅 金七拾錢

一 採藻

海苔採

一 等

海面百坪ニ付 年稅 金七拾錢

第五章 府會の行動 明治三十五年の府會



二 等	海面百坪ニ付	年稅	金五拾五錢
三 等	同	同	金四拾錢
四 等	同	同	金參拾錢
五 等	同	同	金貳拾錢

一 自轉車

營 業

自 用

年稅 金貳圓  
同 金參圓

一 西洋形船

蒸汽船機械船及客船

〔河川ヲ航行スルモノニシテ乘客  
定員四十人以上ノ客船及其ノ曳船  
以上ニ該當セサル船〕

一噸ニ付	年稅	金貳拾錢
一噸ニ付	年稅	金七拾錢
同	同	金貳拾錢〔ト修正〕
同	同	金拾五錢

一 所得稅割

本稅 十分ノ二

〔原案說明〕課目課額中前年度ニ異ナルモノヲ舉ケレハ營業稅法中ノ改正ニ伴ヒ商業第六類及雇人請宿稅ヲ設ケ賣藥行商ニ對スル課稅標準ヲ改メ遊藝師匠ニ等級ヲ付シ遊藝稼人ハ之ヲ廢

スルノ適當ナルト市場稅中入新井村八幡魚市場ハ從來ヨリ縮少セルヲ以テ稅額ヲ改メ南足立郡千住町千住町食品市場ハ廢業ニ付之ヲ除キ採藻稅ハ賦課等級多キニ過ルヲ以テ實際ノ收入高ヲ標準トシテ之ヲ縮メタルト自用自轉車稅ハ他ノ權衡上之ヲ減縮シ又經濟ノ膨脹ニ伴ヒ納稅義務者ノ負擔増嵩セルヲ以テ新ニ所得稅ノ附加稅ヲ起シ其ノ財源ニ加ヘントスルニアリトス

郡部ニ屬スル府稅賦課規則中改正ノ件……………可 決

第三條ノ末ニ左ノ二項ヲ加フ

法人建物稅ハ戶數割賦課ノ町村ニ於テ法人ノ使用スル建物ヲ標準トシ其ノ使用者ニ賦課ス其ノ他ハ本條第一項ヲ準用ス

所得稅割ハ其ノ本稅ニ隨伴シテ本稅納稅者ニ賦課ス但シ所得稅法第三條第一項第二種ノ所得ヲ除ク

第十九條第三號ニ左ノ但シ書ヲ加フ

但シ本府府稅ノ賦課ヲ受ケサル車ヲ使用スル者ヲ除ク

第十九條第五號勞力請負業ノ下ニ竝製造業但シ製造業ニシテ一定ノ製造場アルモノヲ除ク〕ノ二十五字ヲ加フ



第四章ヲ左ノ二章ニ改ム

第四章 家屋稅

第二十一條 家屋稅ハ左ノ町村ニ於テ家屋ヲ所有スル者ニ賦課ス

荏原郡 品川町大崎町大井町

豐多摩郡 内藤新宿町大久保村淀橋町千駄ヶ谷村澁谷村

北豐島郡 板橋町巢鴨町瀧野川村日暮里村南千住町王子村

南足立郡 千住町

南葛飾郡 吾嬬村寺島村龜戸町大島町隅田村

南多摩郡 八王子町

第二十二條 家屋稅ノ賦課額ハ現ニ四月一日十月一日ニ存在スル建物ノ坪數(一)

建物ノ種類(二)建物敷地ノ地位(三)トヲ標準トシ左ノ方法ニ依リ個數ヲ設ケテ算

定スルモノトス

一 建物ノ坪數ハ其建坪ニ依リ二層以上及地中室ハ一坪ヲ七合トシテ計算ス

但シ左ニ掲クルモノハ算入セス

甲 私立學校教場其ノ他専ラ學藝又ハ慈善ノ用ニ供スル建物ニシテ營利ノ

目的ニアラサルモノ

乙 掘建タル假小屋ノ類及戸締ナキ肥料小屋

丙 二層以上及地中室ニシテ床面ヨリ天井又ハ梁マテノ高五尺未滿ノモノ

但シ高低アルモノハ高キニ依ル

丁 二層以上及地中室ノ昇降口ニシテ空隙ノ坪數

二 建物ノ種類ヲ分テ左ノ二類トス

一 類 木造ニアラサル建物 乘率 一・五〇

二 類 木造ノ建物 同 一・〇〇

三 建物敷地ノ地位ハ分テ左ノ十三等トス

一 等 公定地價百坪ニ付 參百六拾圓以上 乘率 四・〇〇

二 等 同 參百六拾圓未滿 同 三・七五

三 等 同 貳百六拾五圓五拾錢以上 同 三・五〇

四 等 同 百九拾七圓貳拾五錢以上 同 三・二五

五 等 同 百四拾五圓五拾錢未滿 同 三・〇〇

六 等 同 百八圓七拾五錢未滿 同 二・七五

第五章 府會の行動

明治三十五年の府會







七 自家借家ノ別

町村會ニ於テ戸數割ノ負擔ニ堪ヘスト認ムル者ハ課稅外ト爲スコトヲ得ト雖モ該町村ノ負擔額ハ之カ爲減スルコトヲ得ス

第二十六條 十月一日ニ於テ新ニ納稅義務ヲ發生シタル者ノ賦課額ハ其ノ町村ニ於ケル既定ノ等級課額ニ依リテ定ム

第二十七條 戸數割ハ二期ニ區分シ四月一日ニ賦課スルモノヲ前半期トシ十月一日ニ賦課スルモノヲ後半期トシ每期其ノ半額ヲ賦課ス

附 則

此ノ改正ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

郡部 第五號議案

明治三十六年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………可 決

一金貳拾壹圓拾錢

郡部巡查一人一ヶ月分

郡部 第六號議案

明治三十六年度東京府郡部恩賜金歲入歲出豫算書……………可 決

歲 入

第一款 恩

賜 金 金五百七拾壹圓拾錢六厘

第一項 繰

越 金 金參拾六圓貳拾五錢

第二項 財

産 收 入 金五百參拾四圓八拾五錢六厘

歲入合計金五百七拾壹圓拾錢六厘

歲 出

第一款 恩

賜 金 金五百七拾壹圓拾錢六厘

第一項 公債證書買入代

金 金五百七拾壹圓拾錢六厘

歲出合計金五百七拾壹圓拾錢六厘

郡部 第七號議案

明治三十六年度東京府郡部巡查給助資金歲入

歲出豫算書……………可 決

歲 入

第一款 巡查給助資金 金九千七拾壹圓四拾七錢八厘

第一項 繰

越 金 金拾圓

第五章 府會の行動

明治三十五年の府會



第二項 郡部歳出繰入金 金參千五百九拾九圓五錢

第三項 財産收入 金五千四百六拾貳圓四拾貳錢八厘

歳入合計金九千七拾壹圓四拾七錢八厘

歳出

第一款 巡查給助資金 金九千七拾壹圓四拾七錢八厘

第一項 給助金 金九千七拾壹圓四拾七錢八厘

歳出合計金九千七拾壹圓四拾七錢八厘

郡部 第八號議案 積立金ノ設置及處分ニ關スル件……………可決

一 整理公債證書額面七千四百圓

一金參拾七圓六拾五錢九厘

右救恤資金

一金六百五拾四圓五拾七錢八厘

右勸業資金

一金貳千四百七拾壹圓拾四錢

右衛生資金

一 整理公債證書額面四百五拾圓

一 東京市公債證書額面四百圓

一金八百五圓九拾五錢壹厘

右學資金

公債證書額面七千九百五拾圓

合計 金參千九百六拾九圓參拾貳錢五厘

但決算上増減ヲ生スルトキハ其額ニ依ル

右ハ各腹書ノ通資金トシテ各別ニ蓄積セシヲ明治三十六年度ヨリ之ヲ合算シ蓄積金トシテ利倍増殖ヲ圖ルモノトス

(原案説明) 救恤資金ハ之ヨリ生スル收入ヲ以テ窮民ヲ救恤シ勸業資金ハ其ノ收入ヲ普通經濟ニ編入シ其ノ他ハ利倍増殖ヲ圖リ各特別經濟ヲ立テシモ窮民ノ救恤ハ之ヲ普通經濟ニ移シ而シテ各資金ヲ一括シテ利倍増殖ノ途ヲ圖ラントスルニ由ル

郡部 第九號議案 明治三十六年度東京府郡部蓄積金歳入豫算書……………可決



歲入

第一款 蓄積金 金六百七拾六圓參拾五錢貳厘

第一項 財產收入 金六百七拾六圓參拾五錢貳厘

歲入合計金六百七拾六圓參拾五錢貳厘

第十號議案部

明治三十五年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書…可決

歲入

臨時部

第一款 繰越金 金壹萬千九百八拾九圓拾錢五厘

第一項 前年度繰越金 金壹萬千九百八拾九圓拾錢五厘

第二款 國庫補助金 金千貳百九拾貳圓五拾錢

第二項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金千貳百九拾貳圓五拾錢

臨時部合計金壹萬參千貳百八拾壹圓六拾錢五厘

歲入總計金壹萬參千貳百八拾壹圓六拾錢五厘

歲出

經常部

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金五千五百貳拾六圓六拾錢五厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金五千五百貳拾六圓六拾錢五厘

經常部合計金五千五百貳拾六圓六拾錢五厘

臨時部

第五款 市町村傳染病豫防補助費 金七千七百五拾五圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金七千七百五拾五圓

臨時部合計金七千七百五拾五圓

歲出總計金壹萬參千貳百八拾壹圓六拾錢五厘

第十一號議案部

明治三十五年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書…可決

歲入

經常部

第一款 地租 金拾參萬五千八百五拾參圓貳拾七錢

第一項 地租 金拾參萬五千八百五拾參圓貳拾七錢

(地租壹圓二付參拾七錢)

第五章 府會の行動

明治三十五年の府會



經常部合計金拾參萬五千八百五拾參圓貳拾七錢

臨時部

第一款 繰越金 金八千七拾四圓四拾九錢參厘

第一項 前年度繰越金 金八千七拾四圓四拾九錢參厘

臨時部合計金八千七拾四圓四拾九錢參厘

歳入總計金拾四萬參千九百貳拾七圓七拾六錢參厘

歳出

經常部

第三款 土木費 金六萬四千五百五拾圓貳拾四錢貳厘

第一項 道路橋梁費 金六萬貳百五拾四圓七拾貳錢六厘

第二項 治水堤防費 金參千六百九拾圓五拾壹錢六厘

第三項 測量費 金貳百五圓

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金七萬貳千百拾七圓拾參錢壹厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金七萬貳千百拾七圓拾參錢壹厘

經常部合計金拾參萬六千貳百六拾七圓參拾七錢參厘

臨時部

第二款 土木費 金千四百貳拾八圓

第一項 道路橋梁費 金千四百貳拾八圓

第三款 郡市町村土木補助費 金五千七百五拾壹圓九拾四錢五厘

第一項 道路橋梁費補助 金千五百拾五圓九拾九錢六厘

第二項 治水堤防費補助 金六百拾壹圓九拾貳錢參厘

第三項 枳樋費補助 金參千六百貳拾四圓貳錢六厘

臨時部合計金七千七百七拾九圓九拾四錢五厘

歳出總計金拾四萬參千四百四拾七圓參拾壹錢八厘

(原案説明) 本年八月九月ノ交非常出水ノ爲道路橋梁堤防ノ破壊甚シク之カ復舊ヲ要スル爲土木費及土木補助費ノ追加ヲ要スル等ニ由ル

郡第十二號議案

明治三十五年度東京府郡部追加地租割賦課方ノ件.....可決

明治三十五年東京府郡部追加地租割ノ賦課ニ付テハ郡部ニ屬スル府稅賦課規則第一條ヲ適用セス明治三十六年一月一日現在ノ地租額ニ依リ納租者ニ賦課ス

第五節 府會の行動

明治三十五年の府會



郡部  
第十三號議案

明治三十六年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書...可決

歳入

經常部

第一款 地租 割 金五萬八千七百五拾四圓八拾八錢

第一項 地租 割 金五萬八千七百五拾四圓八拾八錢  
(地租壹圓ニ付拾六錢)

第十款 市郡連帶郡部收入額 金千百貳拾九圓九拾壹錢貳厘

第一項 市郡連帶郡部收入額 金千百貳拾九圓九拾壹錢貳厘

經常部合計金五萬九千八百八拾四圓七拾九錢貳厘

歳入總計金五萬九千八百八拾四圓七拾九錢貳厘

歳出

經常部

第五款 市郡分賦郡部負擔額 金五萬八千六百五拾圓貳拾錢五厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金五萬八千六百五拾圓貳拾錢五厘

經常部合計金五萬八千六百五拾圓貳拾錢五厘

歳出總計金五萬八千六百五拾圓貳拾錢五厘

郡部  
諮問第一號

府費補助道及町村費支辨道ヲ府費支辨道ニ編入ノ件

.....答申議決

府費補助道及町村費支辨道ヲ府費支辨道ニ編入路線

名稱	費途區分	長	幅	面積	經過地
熊ヶ谷本道	町村費支辨	五三〇〇	一三〇	一、〇六〇	南足立郡千住町字中組陸羽街道ヨリ分岐シ字掃部堤通リ熊ヶ谷道ニ合ス
堀切道	府費補助	一、二〇〇	一〇〇	九三三	南葛飾郡南綾瀨村大字堀切立石道ヨリ分岐シ字一軒家ニテ四ツ木街道ニ合ス
準市街道	町村費支辨	五三〇〇	三六〇	三、一八〇	南多摩郡八王子町字新町甲州街道ヨリ分岐シ字玉往還ニ合シ字狭山街道ト稱ス
	府費補助	一一五〇	二四〇	四六〇〇	同 上字横山甲州街道ヨリ分岐シ字元横山二
	町村費支辨	一〇八〇	二四〇	四三三〇	同 上字八幡甲州街道ヨリ分岐シ字本町二十
	府費補助	一四六〇	二四〇	五八四〇	同 上字八幡甲州街道ヨリ分岐シ字馬乘六十
	町村費支辨	一九〇〇	三〇〇	九五〇〇	同 上字八幡甲州街道ヨリ分岐シ字馬乘五十
	府費補助	二〇三〇	二四〇	八二二〇	同 上字横山甲州街道ヨリ分岐シ字馬乘百十
	町村費支辨	二〇三〇	二四〇	八二二〇	同 上字横山甲州街道ヨリ分岐シ字馬乘百十
	府費補助	二〇三〇	二四〇	八二二〇	同 上字横山甲州街道ヨリ分岐シ字馬乘百十
	町村費支辨	二〇三〇	二四〇	八二二〇	同 上字横山甲州街道ヨリ分岐シ字馬乘百十
	府費補助	二〇三〇	二四〇	八二二〇	同 上字横山甲州街道ヨリ分岐シ字馬乘百十







名稱	費途區分	長	幅	面積	經	過	地
帝釋道ノ内	府費補助	二五〇〇 <sup>間</sup>	一三〇 <sup>尺</sup>	五〇〇〇 <sup>坪</sup>	南葛飾郡奥戸村大字曲金中川堤防ヨリ小松川道ヲ横切リ帝釋道ニ合ス		
	町村費	七五〇	一一〇	一、五九〇〇			
本村道ノ内	府費補助	三三〇〇	一五〇	八二二五	北豊島郡赤塚村大字徳丸本字東ヨリ同郡志村大字西臺字京極ニ至ル間		
	町村費	七五〇	一一〇	一、五九〇〇			

町村費支辨道ヲ府費補助道ニ變更路線

名稱	費途區分	長	幅	面積	經	過	地
川和道ノ内	町村費	三七三五 <sup>間</sup>	九〇 <sup>尺</sup>	五五八八 <sup>坪</sup>	南多摩郡南村大字成瀬字吹上ヨリ神奈川縣都筑郡田祭村大字長津田村界ノ間		

府費支辨道延長路線

名稱	費途區分	長	幅	面積	經	過	地
帝釋支道	府費支辨	二二〇〇 <sup>間</sup>	一三〇 <sup>尺</sup>	四三三〇 <sup>坪</sup>	南葛飾郡奥戸村字曲金渡場上中川堤防ヨリ小松川道ヲ横切リ帝釋道ニ接ス		

右帝釋道ノ一部ハ交通不便ナルヲ以テ補助道曲金道ヲ以テ帝釋道ノ一部ニ變更シ從來ノ支辨道ハ一部ヲ帝釋支道ノ延長トシ本村道及川和道ハ坂路急峻往來不便ニヨリ之ヲ變更セントス

右其ノ會ノ意見ヲ問フ

(答申) 諮問ノ趣旨ニ同意ス

明治三十四年度東京府郡部歳入歳出決算書……………承認

第六節 明治三十六年の府會

第一臨時府會

本會は明治三十六年七月二十七日午後一時四十二分に開會し、即日議事終了して、午後二時十六分閉會した。

劈頭知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

「本日ヲ以テ臨時府會及ヒ郡部會ヲ開キマス、當會ニ提出スル議案ハ府會議員配當ノ更正並ニ特別會計ノ豫算テアリマス、之ヲ提出スル理由ハ議案ニ説明致シテアリマスカラ茲ニ省略ヲ致シマス、審議ヲ遂ケラレテ適當ノ決議アラムコトヲ望ミマス(明治三十五年府會速記録ニ次で芳野議長は、次の事項を報告した。

官發第一三八號



來ル二十七日ヨリ開會ノ第一回臨時府會郡部會ノ議事參與員別紙之通ニ有之候此段及通牒候也

明治三十六年七月二十五日 東京府知事 男爵 千家 尊 福

東京府會議長 芳野 世 經 殿

(別紙)

東京府書記官床 次竹 二郎  
東京府參事官鈴 木 邦 義  
東京府屬 鷺 見 金 三 郎

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十六年第一回臨時府會郡部會ノ議事ニ參與ヲ命ス

議長は、會議の同意を得て、伊坂半九郎・岩崎宗吉を會議錄署名議員に選定した。

議 案

府臨第一號議案 府會議員配當更正ノ件……………可 決

議決摘要

府臨第一號議案 府會議員配當更正ノ件……………可 決

府縣制第五條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府會議員數ノ内神田區選舉區四人ヲ三人ニ京橋區選舉區三人ヲ四人ニ更正スルモノトス

(原案説明) 神田區及京橋區ハ人口ニ著シキ増減アルヲ以テ明治三十二年内務省令第十七號ニ依リ今回ノ改選ニ際シ其配當ヲ更正スルノ必要アルニ由ル

府會議員配當更正參考書

郡 區	人 口	算出議員數	配當議員數	現在議員數	現在ニ比シ 増 減
麴 町	七、九三	一・九三	二	二	〇
神 田	一六、二八二	三・二六	三	四	減 一
日 本 橋	一三七、四三四	三・四四	四	四	〇
京 橋	一三八、七九三	三・四七	四	三	増 一
芝 布	一三八、六六三	三・三三	三	三	〇
麻 布	五三、七二六	一・三三	一	一	〇
赤 坂	四四、三五七	一・二一	一	一	〇
四 谷	四二、一七三	一・〇五	一	一	〇



郡區	人口	算出議員數	配當議員數	現在議員數	現在ニ比シ増減
牛込	五、四六九	一・二九	一	一	〇
小石川	五、七三九	一・三九	一	一	〇
本郷	八四、三三〇	二・二一	二	二	〇
下谷	一一、一九五	二・八〇	三	三	〇
淺草	一三九、九五五	三・五〇	四	四	〇
本所	一三三、三五一	三・三一	三	三	〇
深川	一〇一、一七	二・五五	三	三	〇
計	一、四三五、三六六	〇	三六	三六	〇
荏原	九五、八一七	二・四〇	二	二	〇
豐多摩	六〇、五六五	一・五一	二	二	〇
北豐島	九〇、一六六	二・二五	二	二	〇
南足立	四三、一六〇	一・〇八	一	一	〇
南葛飾	七五、九一九	一・九〇	二	二	〇

郡區	人口	算出議員數	配當議員數	現在議員數	現在ニ比シ増減
西多摩	七三、〇七三	一・八〇	二	二	〇
南多摩	九三、一三四	二・三三	二	二	〇
北多摩	九〇、三五一	二・二六	二	二	〇
計	六三二、一八四	〇	一五	一五	〇
伊豆七島	二四、六三五	〇	〇	〇	〇
小笠原島	四、五一九	〇	〇	〇	〇
計	二九、一四四	〇	〇	〇	〇
總計	二〇七五、六九四	〇	五二	五二	〇

配當方法

- 一 人口ハ三十三年二月一日ノ官報ニ依ル
- 一 伊豆七島及小笠原島ヲ除キ人口四萬ニ付議員一人トス
- 議員ノ數ニ端數ヲ生シタルモノハ四捨五入ノ法ニ依ル
- 右ニ依リ配當シタル二人ノ不足ハ切捨タル端數ノ最多キ京橋日本橋ノ二區ニ各一人ヲ加フ



第一臨時郡部會

本會は、明治三十六年七月二十七日午後二時六分に開議し、即日午後二時十四分議事終了散會した。

谷岡議長は、會議の同意を得て、井上吉之助中里民平を會議録署名議員に選定した。

議案

- 郡部 第一號議案部 明治三十六年度東京府郡部學資金歲入豫算書……………可決
- 郡部 第二號議案部 明治三十六年度東京府郡部衛生資金歲入豫算書……………可決
- 郡部 第三號議案部 明治三十六年度東京府郡部救恤資金歲入豫算書……………可決

議決摘要

郡部 第一號議案部 明治三十六年度東京府郡部學資金歲入豫算書……………可決

第一款 學 資 入 金 七拾貳圓八拾九錢

第一項 財 產 收 入 金 七拾貳圓八拾九錢

歲入合計金七拾貳圓八拾九錢  
(原案説明) 本年度ニ於テ此ノ豫算ヲ設クルハ曩ニ通常郡部會ノ議決ヲ經タル學資金ノ處分及三十六年度郡部蓄積金歲入豫算ノ特別會計設置ハ其筋ノ許可ヲ得サリシヲ以テ従前ノ通存置スルニ由ル

郡部 第二號議案部 明治三十六年度東京府郡部衛生資金歲入豫算書……………可決

歲 入

第一款 衛 生 資 金 百參拾五圓九拾壹錢參厘

第一項 財 產 收 入 金 百參拾五圓九拾壹錢參厘

歲入合計金百參拾五圓九拾壹錢參厘

(原案説明) 郡部臨第一號議案ノ説明ニ同シ

郡部 第三號議案部 明治三十六年度東京府郡部救恤資金歲入豫算書……………可決

歲 入

第一款 救 恤 資 金 參百七拾貳圓八拾錢

第五章 府會の行動 明治三十六年の府會



第一項 財 產 收 入 金參百七拾貳圓八拾錢

歲入合計金參百七拾貳圓八拾錢

(原案説明) 郡部臨第一號議案ノ説明ニ同シ

第二臨時府會

本會は、明治三十六年十月二十一日午後一時五十七分に開會し、即日議事終了、午後三時三十六分閉會した。

開會の初め知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

「諸君 本日ヲ以テ臨時府會竝ニ市部會郡部會ヲ開キマス、當會ニ於テハ役員ヲ選舉セラルルヤウニ致シタイト思ヒマス、又當會ニ向ツテハ傳染病豫防ニ關スル費用其他ノ追加豫算ヲ提出致シマシテコサイマス、幸ニ審議ヲ遂ケラレテ適當ノ決議アラムコトヲ望ミマス(明治三十六年府會速記録)」

この會議は、改選後初めての臨時會であるため、議長副議長が缺員で、年長議員中島行孝が假議長となつて、府會議長選舉の投票を行ひ、齋藤孝治が當選した。

次に齋藤議長が、府會副議長の選舉を行ひ、小林一生が當選した。而して齋藤議長は、次の事項を報告し、續いて會議の同意を得て、中村平三郎・杉原

榮三郎を會議錄署名議員に選定した。

官發第一八〇號

來ル二十一日ヨリ開會ノ臨時府會市部會郡部會ノ議事參與員別紙ノ通ニ有之候此段及通牒候也

明治三十六年十月十三日 東京府知事 男爵 千家 尊 福

東 京 府 會 御 中

(別紙)

東京府書記官床 次竹二郎 東京府參事官鈴木 邦 義

東京府屬 鷺見金三郎

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十六年臨時府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ

命ス

警視 川上 親 晴 警視廳技師 奥 貫 恭 助

警視屬 長澤 誠之助 警視屬 矢 吹 權

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十六年臨時府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ

囑託ス



議案

府臨第一號議案 不動産買受ノ件……………可決

議決摘要

府臨第一號議案 不動産買受ノ件……………可決

東京市小石川區駕籠町、本郷區駒込上富士前町所在  
一廢道敷地六百十坪五合

此代金千貳百貳拾壹圓 但一坪ニ付貳圓

右東京府立巢鴨病院敷地トシテ買受クルモノトス

臨時市部會

本會は明治三十六年十月二十一日午後二時二十七分を以て開議し、即日議事終了、午後三時二十八分散會した。

この會議は、議員改選後初めての臨時會である爲め、年長議員中島行孝が假議長となつて、市部會議長の選舉投票を行ひ、杉原榮三郎が當選した。

次に、杉原議長が、市部會副議長の選舉を行ひ、古川孝七が當選した。

名譽職參事會員四名同補充員四名の選舉については、會議の議決に依り、指名推選の法を用ふることとなり、議長の指名を以て次の通決定した。

名譽職參事會員

- 袴田喜四郎
- 岩崎宗吉
- 長谷川吉次
- 今野信隆

名譽職參事會員補充員

- 第一 松角武忠
- 第二 松見文平
- 第三 袴田瀧三郎
- 第四 徳岡梅吉

議長は、會議の同意を得て、福田又一・酒井泰を會議錄署名議員に選定した。

議案



市臨第一號議案部 明治三十六年度東京府市部歲入歲出追加豫算書……可決  
 市臨第二號議案部 明治三十六年度東京府市部追加家屋稅賦課方ノ件……可決  
 議決摘要

市臨第一號議案部 明治三十六年度東京府市部歲入歲出追加豫算書……可決

歲入

經常部

第五款 家屋稅 金七萬六千七拾八圓五錢

第一項 家屋稅 金七萬六千七拾八圓五錢  
(二個ニ付六厘)

第七款 國庫下渡金 金貳百九拾參圓貳拾錢

第一項 警察費下渡金 金貳百九拾參圓貳拾錢

第八款 雜收入 金六千圓

第六項 辨償金 金六千圓

經常部合計金八萬貳千參百七拾壹圓貳拾五錢

臨時部

第二款 國庫補助金 金六千參百六拾五圓拾參錢壹厘  
 第一項 傳染病豫防費補助金 金千九百九拾八圓四拾六錢四厘  
 第二項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金五千百六拾六圓六拾六錢七厘  
 臨時部合計金六千參百六拾五圓拾參錢壹厘  
 歲入總計金八萬八千七百參拾六圓參拾八錢壹厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金六千七百參拾參圓

第二款 廳費 金六千七百參拾參圓

第三款 衛生及病院費 金七千九拾圓七拾八錢壹厘

第一項 衛生諸費 金七千九拾圓七拾八錢壹厘

經常部合計金壹萬參千九百貳拾參圓七拾八錢壹厘

臨時部

第二款 市町村傳染病豫防補助費 金參萬千圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金參萬千圓



臨時部合計金參萬千圓

歳出總計金四萬四千九百貳拾參圓七拾八錢壹厘

市 臨第二號議案部

明治三十六年度東京府市部追加家屋稅賦課方

ノ件……………可決

明治三十六年度東京府市部追加家屋稅個數一個ニ付六厘ハ同年度後半期分ト併テ之ヲ賦課ス

第二臨時郡部會

本會は、明治三十六年十月二十一日午後二時五十四分に開議し、即日議事終了、午後三時三十四分散會した。

この會議は、議員改選後初めての臨時會である爲め、谷岡慶治が假議長となつて郡部會議長の選舉投票を行ひ、秋本喜七が當選した。

次に、秋本議長が、郡部會副議長の選舉を行ひ、會議の議決に依り、指名推薦の法を用ふるこゝとなり、議長の指名を以て次の通決定した。

郡部會副議長 井田忠信

名譽職參事會員四名、同補充員四名の選舉は、指名推薦の法を用ふるこゝとなり

議長の指名を以て、次の通決定した。

名譽職參事會員

井上吉之助

瀬沼伊兵衛

中里民平

谷岡慶治

名譽職參事會員補充員

第一 秋本喜七

第二 井田忠信

第三 大川誠吾

第四 小澤芳重

議長は、會議の同意を得て、井田忠信・松井寅太郎の二名を會議録署名議員に選定した。



議案

郡部  
臨第一號議案

明治三十六年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……………可決

議決摘要

郡部  
臨第一號議案

明治三十六年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……………可決

歲入

經常部

第八款 國庫下渡金 金百六拾四圓四拾錢

第一項 警察費下渡金 金百六拾四圓四拾錢

第九款 雜收入 金七百八拾圓

第六項 辨償金 金七百八拾圓

經常部合計金九百四拾四圓四拾錢

臨時部

第一款 繰越金 金六千八百貳拾八圓五拾貳錢九厘

第一項 前年度繰越金 金六千八百貳拾八圓五拾貳錢九厘

第二款 國庫補助金 金千參百拾六圓參拾八錢六厘

第一項 傳染病豫防費補助金 金四百八拾參圓五錢參厘

第二項 市町村傳染病豫防補助金 金八百參拾參圓參拾參錢參厘

臨時部合計金八千四百四拾四圓九拾壹錢五厘

歲入總計金九千八拾九圓參拾壹錢五厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金千百九拾壹圓

第二項 廳費 金千百九拾壹圓

第四款 衛生及病院費 金貳千八百九拾八圓參拾壹錢五厘

第一款 衛生諸費 金貳千八百九拾八圓參拾壹錢五厘

經常部合計金四千八拾九圓參拾壹錢五厘

臨時部

第五款 市町村傳染病豫防補助費 金五千圓



第一項 市町村傳染病豫防補助費 金五千圓

臨時部合計金五千圓

歳出總計金九千八拾九圓參拾壹錢五厘

通常府會

本會は、明治三十六年十一月二十四日午後二時七分に開會し、會議七日間に涉り十二月十一日午後三時四十六分議事終了閉會した。

開會の當初、知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

〔諸君 本日ヲ以テ通常府會ヲ開設致シマス、本會ニ提出スルハ三十七年度歳入歳出豫算其他ノ議案テ、各議案提出ノ理由ハ添付シテ置キマシタ説明書ニ讓ツテ茲ニ説明ヲ省略致シマス其豫算又ハ議案ノ中ニ就テ重モナルモノハ巡查教習所ノ改築、女子師範學校附屬小學校及織染學校ノ増築、警察行政刷新ニ伴フ増額ニ過キナイコトデアリマス、願クハ審議ヲ遂ケラレテ適當ノ決議アラムコトヲ望ミマス(明治三十六年府會速記録)〕

齋藤議長は先づ、次の事項を報告した。

官發第二七〇號

來ル二十四日ヨリ開會ノ通常府會市部會郡部會ノ議事參與員別紙ノ通ニ有之

候此段及通牒候也

明治三十六年十一月二十日

東京府知事 男爵 千家 尊 福

東京府會議長 齋藤 孝 治 殿

(別紙)

- 東京府書記官床 次 竹 二 郎 東京府參事官鈴 木 邦 義
- 東京府視學官岡 五 郎 東京府技師 杉 谷 幸 藏
- 東京府屬 鷺 見 金 三 郎 東京府屬 竹 内 順 吉
- 東京府屬 久 保 義 三 郎 東京府屬 澁 谷 元 良
- 東京府屬 佐 藤 襄 東京府技手 三 浦 吉 勝
- 東京府技手 王 供 阿 久

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十六年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ命ス

- 警視 川 上 親 晴 警視廳技師 奥 貫 恭 助
- 警視屬 長 澤 誠 之 助 消防士兼警視廳警部 寶 田 通 經
- 警視廳警部 森 英 雄 警視屬 矢 吹 權



警視屬 平田宗紀

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十六年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ囑託ス

次で議長は、會議の同意を得て、中村平三郎、杉原榮三郎を會議録署名議員に選定した。

この會議に於ける特筆事項は、一、土木及衛生常設委員設置に關する建議、二、第六回内國勸業博覽會開設地決定に關する建議、三、積立金の設置及特別會計に關する審議、四、向島堤防工事に關する質問の四件である。

一 土木及衛生常設委員に關する建議

土木費並衛生及病院費は、逐年増加の傾向を呈し、殊に、衛生及病院費中傳染病豫防費は、從來、市部郡部各別の負擔に屬せるを、本年度より連帶支辨に移すこととなつた。之等の支出を監査すると同時に施設の萬全を期するため、土木及衛生に關する常設委員設置の必要を認むるから、府會議員中より土木常設委員七名、衛生常設委員三名を設置することとし、其の設置規程並費用辨償額及支給方法を提案せられたいと、の建議案を、議員杉原榮三郎外五名から提出した。然るに福田又一其

の他は内務省に於て、長期に渉る委員の設置を許可せざる方針であり、既設の土木常設委員も、三十六年九月限り廢止することに、昨年通常府會に於て議決した次第もあり、其筋の許可を得難いことが判明してゐるに拘らず、強いて建議するが如きは、實に徒勞に屬するのみならず、議員が府費支辨の事業を調査監視するには自他に方法が存するから、殊更に委員を設けて、府會議員が知事の指揮監督を受くるが如き地位に就くのは、不見識極まることであると反對したが、之に對し提出者側は、府會が其の權能に據て建議するのに、其筋の許否如何を顧慮する必要はなく、府政上必要缺くべからざる事項は必ず許可せらるゝ筈であると反駁し、採決の結果、多數を以て原案を可決した。

二 第六回内國勸業博覽會開設地決定に關する建議

第一回、第二回内國勸業博覽會は何れも東京に於て開催せられたのであるが、其後第三回は、京都又は大阪等地方に於て開設を見たのである。然れども、本府は帝國の首都繁華の中樞として、最も適當の地と認むるから、第六回の開設地は本府下適當の地に決定せられたいといふ趣旨を以て、内務大臣に建議せんとするのである。これに就ては、先年も府會から建議を爲した次第もあり、旁府民輿論の趨向を



察して原案は全會一致を以て可決せられた。  
三積立金の設置及特別會計に關する審議

府第十二號議案積立金の設置及特別會計に關する件は、府立各學校に屬する毎年度經常部歳出の決算剩餘金を當該學校の基本金とし、特別會計を設けて蓄積せんとする趣旨である。この案に對しては、種々質問もあり異論も亦多く、容易に議事の進捗を期し難い形勢であつた。即ち、豫算は本來過不足なき見積を以て適當に編成し、參事會の審査を経府會に於て議決し、漸く確定に至るもので、剩餘金の生ずることを豫想すべきでない。然るに本案の趣旨は、剩餘金の生ずることを前提とするもので、自然豫算を過當に計上するが如き弊を生じ易く、豫算の本質に背反する有害無益の提案なりとして反對の意見が述べられた。之に對して、理事者から種々説明する所あつたが、結局五名の調査委員を設け、杉原榮三郎を委員長として調査した結果、原案を可決すべきものと認むる旨報告があつた。其の理由として豫算は、其の性質上餘裕の生ずることを前提とすべきではないが、豫算の執行に際して、各當事者の經理宜しきを得ると否とに依り、其の他四圍の事情に依り自ら其處に多少の差違を生ずるを免れない。従つて各學校當事者が苦心して理財の

途を盡し、其の結果剩し得た豫算を其の校の基本金として蓄積するの途を拓き得るとすれば、必然豫算の濫費及膨脹を防ぐと同時に、基本金を増殖することを得相當の効果を期待することが出来るといふ、理事者の説明に同意したのであると、委員長から説明があつた。會議に於ては、委員會の報告を認めて原案に可決した。

四 向島堤防工事に關する質問

松見文平は、現に工事中の、三十六年度所屬向島堤防工事の現場に於て、設計書には相州三浦郡浦郷村産高取石と指定してあるに拘らず、之に相違せる通稱土圍といふ品を使用し、從來も亦屢々使用した前例がある旨、現場監督吏員が言明した。全然設計書に反して石の代用として土圍を使用するのは甚だ怪訝に堪へぬ次第である」と、現場から持參した土圍の現品を提出して、理事者の答辨を求めた。之に對して、理事者から種々辨明もあつたが、議論沸騰し、竟に「向島堤防工事ニ對シ調査スルノ必要アリト認ム右調査終了迄理事者ニ於テ工事ノ中止ヲ望ム」といふ建議案が可決された。そこで、理事者が現場に就て調査の結果、土圍を使用したとの質問であるが、それは設計書に指定せる高取石であつて、土圍ではないと辨明したが、尙ほ質問や辯難が續出し、容易に拾收し難い形勢であつたが、結局、議事の進行を圖



る關係上本問題は議員と理事者との協議會に移すことゝなつた。

かくて議事は終了を告げたので、千家知事は、次の閉會辭を述べて會議を閉ぢた。

〔諸君 本會ニ提出シタル豫算其他ノ議案ハ例ニ依テ和衷協同ノ實ヲ擧ケラレマシテ本日悉ク議了セラレマシタ、又一方ニ於テハ府政上ニ對シテ御注意或ハ御希望ヲ縷々申述ヘラレタルコトテアリマシテ、ソレ等ノ點ニ就キマシテハ將來最モ注意ヲ致シテ諸般ノコトヲ處理スルツモリテアリマス、此段御了承アラムコトヲ希望イタシマス、茲ニ閉會ヲ告ケマシテ諸君連日ノ勞ヲ謝シマス(明治三十六年府會速記録)〕

議案 附建議案

- 府第一號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件……………可決
- 府第二號議案 市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ノ件……………可決
- 府第三號議案 明治三十七年度東京府歳入歳出豫算書……………可決
- 府第四號議案 明治三十七年度東京府罹災救助基金歳入歳出豫算書……………可決
- 府第五號議案 明治三十七年度東京府小學校教員恩給基金歳入豫算書……………可決
- 府第六號議案 明治三十七年度東京府小學校教員恩給金歳入歳出豫算書……………可決

- 府第七號議案 明治三十七年度東京府第一高等女學校基本金歳入豫算書……………可決
- 府第八號議案 明治三十七年度東京府小學校教員加俸資金歳入歳出豫算書……………可決
- 府第九號議案 明治三十七年度東京府教育資金歳入歳出豫算書……………可決
- 府第十號議案 不動産賣却ノ件……………可決
- 府第十一號議案 不動産賣却ノ件……………可決
- 府第十二號議案 積立金ノ設置及特別會計ニ關スル件……………可決
- 府第十三號議案 使用料増額ノ件……………可決
- 府第十四號議案 市部郡部ノ分擔及收入割合中改正ノ件……………可決
- 府第十五號議案 明治三十七年度東京府歳入歳出追加豫算書……………可決
- 明治三十五年度東京府歳入歳出決算書……………承認
- 第六回内國勸業博覽會ヲ東京ニ開設スルノ建議……………可決
- 土木衛生常設委員設置ノ建議……………可決



行政執行法中密賣淫取締ニ關スル條項及明治

二十八年警視廳令第八號勵行ヲ望ムノ建議……………可決

東京市區改正事業促進ニ關スル建議……………可決

慢性傳染病取締法設定ニ關スル建議……………可決

議決摘要

府第一號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件……………可決

府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別中左ノ通改ム

市部會議決事件中衛生及病院費ノ一項ヲ削ル

郡部會議決事件中衛生及病院費ノ一項ヲ削ル

(原案説明) 從來傳染病豫防及檢微ニ關スル費用ハ市部郡部各別ノ經濟ニ依テ支辨セシカ爲檢疫委員及檢微醫ノ運用上不便ニシテ且經濟上不利益ナルヲ以テ市郡共通支辨ニ改メントスルニ由ル

府第二號議案 市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ノ件……………可決

明治三十二年勅令第二百八十五號第五條ニ依リ明治三十七年度府費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合左ノ通定ムルモノトス

市部郡部分擔ノ割合

衛生及病院費 市 八分六厘 郡 壹分四厘  
府吏員費 市 四分六厘 郡 五分四厘

市部郡部ノ分擔割合參考表

科	目		割	合	標	準
	市	郡				
衛生及病院費	市	八分	六厘	市	郡	傳染病豫防費及檢微費ハ人口其ノ他ハ戶數ヲ準トシ市部ハ戶數ノ二倍トス
	郡	壹分	四厘			
府吏員費	市	四分	六厘	市	郡	土功ニ關スルモノハ土木費營繕ニ關スルモノハ當該建築費出納ニ關スルモノハ府費取扱費ノ歩合
	郡	五分	四厘			

府第三號議案 明治三十七年度東京府歲入歲出豫算書……………可決

歲入

經常部

第一款 財產收入 金壹萬千六百貳拾圓

第五章 府會の行動 明治三十六年の府會



第一項 不動產收入 金壹萬千參百五拾圓

第二項 動產收入 金貳百七拾圓

第二款 國庫下渡金 金四萬五千五百六拾參圓八拾錢四厘

第一項 警察費下渡金 金四萬五千五百六拾參圓八拾錢四厘

第三款 雜收入 金拾壹萬五千貳百九拾六圓七拾五錢四厘

第四款 市郡分賦額 金六拾四萬八千貳拾四圓九拾參錢貳厘

內 市部收入 金四拾五萬百八拾九圓八拾八錢七厘

內 郡部收入 金拾九萬七千八百參拾五圓四錢五厘

第一項 市郡分賦額 金六拾四萬八千貳拾四圓九拾參錢貳厘

經常部合計金八拾貳萬五百五圓四拾九錢

臨時部

第一款 國庫補助金 金參千貳百六拾圓拾參錢六厘

第一項 教育費補助金 金千八百圓

第二款 蠶種檢查費補助金 金千四百六拾圓拾參錢六厘

第二款 財產賣拂代 金貳萬九千百貳拾圓九拾錢

第一項 不動產賣拂代 金貳萬九千百貳拾圓九拾錢

臨時部合計金參萬貳千參百八拾壹圓參錢六厘

歲入總計金八拾五萬貳千八百八拾六圓五拾貳錢六厘

內 市部收入 金六拾壹萬七千八百七圓八拾貳錢六厘

內 郡部收入 金貳拾參萬五千七拾八圓七拾錢

歲出

經常部

第一款 警察費 金七萬八千九百拾四圓五拾壹錢

第一項 俸給及諸給 金參萬千拾圓八拾五錢

巡查九十二人月俸給四圓此金壹萬五千四百五拾六圓九十八人月俸八圓此金八

千六百四拾圓

第二項 廳費 金壹萬七千九百參圓六拾六錢

第三項 警察機密費 金參萬圓

第二款 警察廳舍修繕費 金五拾圓

第一項 修繕費 金五拾圓



第三款 土木費 金六萬貳千六百八拾五圓六拾貳錢八厘

第一項 道路橋梁費 金貳百五拾圓

第二項 治水堤防費 金六萬貳千四百參拾五圓六拾貳錢八厘

第四款 府會議費 金壹萬貳千六百六拾壹圓五拾錢

第一項 府會議費 金七千六百貳拾七圓五拾錢

第二項 府參事會議費 金四千五百參拾四圓

第五款 衛生及病院費 金九萬九千貳百拾六圓七拾七錢五厘

第一項 衛生諸費 金壹萬七千參百貳拾五圓七拾五錢

第二項 巢鴨病院費 金七萬六千七百貳拾五圓貳錢五厘

第三項 檢徵費 金五千百六拾六圓

第六款 教育費 金貳拾四萬千七百九拾八圓四拾壹錢

第一項 師範學校費 金八萬八千八百七拾六圓參錢

第二項 中學校費 金九萬千貳拾七圓八拾四錢

第三項 高等女學校費 金參萬六千九百八拾四圓九拾壹錢

第四項 織染學校費 金壹萬九千四百貳拾貳圓五拾七錢

第五項 學事諸費 金四千四百七拾七圓九拾錢

第六項 小學校教員檢定費 金千九圓拾六錢

第七款 教育費 金六萬七百七拾五圓

第一項 救助費 金六萬七百七拾五圓

第八款 諸達書及揭示諸費 金貳千貳百參拾六圓參錢貳厘

第一項 令達諸費 金貳千貳百參拾六圓參錢貳厘

第九款 勸業費 金貳萬九千參拾六圓貳拾貳錢

第一項 勸業會費 金六千六百九拾壹圓五拾錢

第二項 勸業諸費 金六千七百四拾貳圓拾貳錢

第三項 森林經營費 金壹萬貳千五百拾壹圓六拾錢

第四項 獸疫豫防費 金參千九拾壹圓

第十款 府費取扱費 金參千八百圓

第一項 金庫諸費 金參千八百圓

第十款 府廳舍修繕費 金貳千五百八拾六圓五拾錢

第一項 修繕費 金貳千五百八拾六圓五拾錢



第三款 衆議院議員選舉費 金貳百拾圓

第一項 選舉費 金貳百拾圓

第三款 府會議員選舉費 金貳百七拾圓

第一項 選舉費 金貳百七拾圓

第四款 府吏員費 金參萬四千九拾八圓五錢

第一項 吏員費 金參萬四千九拾八圓五錢

第五款 財產費 金七拾圓

第一項 管理費 金七拾圓

第六款 土地收用費 金貳百圓

第一項 審查諸費 金貳百圓

第七款 豫備費 金壹萬圓

第一項 豫備費 金壹萬圓

經常部合計金六拾參萬八千八百八圓六拾貳錢五厘

臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金參萬四千九百四拾五圓

第一款 建築費 金參萬四千九百四拾五圓

第二款 土木費 金五萬四千五百七拾七圓八拾參錢壹厘

第一項 道路橋梁費 金九百八圓

第二項 治水堤防費 金五萬參千百四拾九圓八拾參錢壹厘

第三款 衛生及病院費 金四千參百五拾八圓

第一項 巢鴨病院費 金四千參百五拾八圓

第四款 教育費 金六萬四百六拾壹圓六拾五錢

第一項 師範學校費 金貳萬六千參百七圓四拾五錢

第二項 中學校費 金六百九圓貳拾錢

第三項 高等女學校費 金貳千九百六拾五圓五拾錢

第四項 織染學校費 金參萬五百七拾九圓五拾錢

第五款 教育補助費 金貳千圓

第一項 教育補助費 金貳千圓

第六款 勸業費 金貳千圓

第一項 森林經營費 金貳千圓



第七款 府廳舍建築費 金參拾參圓

第一項 建築費 金參拾參圓

第八款 衛生及病院費本年度支出額 金五萬六千九百貳拾貳圓四拾貳錢

第一項 巢鴨病院費本年度支出額 金五萬六千九百貳拾貳圓四拾貳錢

臨時部合計金貳拾壹萬四千七百七拾七圓九拾錢壹厘

歲出總計金八拾五萬貳千八百八拾六圓五拾貳錢六厘

內 市部負擔 金六拾壹萬七千八百七圓八拾貳錢六厘

郡部負擔 金貳拾參萬五千七拾八圓七拾錢

府第四號議案 明治三十七年度東京府罹災救助基金歲入歲

出豫算書……………可決

歲入

第一款 罹災救助基金 金四萬千五百八拾六圓六拾錢

第一項 繰越金 金貳千圓

第二項 益金 金參萬九千五百八拾六圓六拾錢

歲入合計金四萬千五百八拾六圓六拾錢

歲出

第一款 罹災救助基金 金四萬千五百八拾六圓六拾錢

第一項 救助費 金貳千四百六拾五圓

第二項 公債證書買入代 金參萬九千百貳拾壹圓六拾錢

歲出合計金四萬千五百八拾六圓六拾錢

府第五號議案 明治三十七年度東京府小學校教員恩給基金

歲入豫算書……………可決

歲入

第一款 小學校教員恩給基金 金參千七百圓

第一項 納付金 金參千七百圓

歲入合計金參千七百圓

府第六號議案 明治三十七年度東京府小學校教員恩給金歲

入歲出豫算書……………可決



歲入

第一款 小學校教員恩給金 金八千七百拾九圓  
 第一項 恩給基金利息 金貳千貳百八拾圓  
 第二項 國庫給與金 金貳千參百參拾九圓  
 第三項 補充金 金四千百圓  
 歲入合計金八千七百拾九圓

歲出

第一款 小學校教員恩給金 金八千七百拾九圓  
 第一項 恩給金 金八千七百拾九圓  
 歲出合計金八千七百拾九圓

府第七號議案 明治三十七年度東京府第一高等女學校基本金

歲入豫算書

可決

歲入

第一款 第一高等女學校基本金 金參拾圓八拾錢

第一項 財產

歲入合計金參拾圓八拾錢

府第八號議案 明治三十七年度東京府小學校教員加俸資金

歲入歲出豫算書

可決

歲入

第一款 小學校教員加俸資金 金四萬千七百貳拾八圓  
 第一項 國庫補助金 金參萬七千圓  
 第二項 財產收入 金四千七百貳拾八圓  
 歲入合計金四萬千七百貳拾八圓

歲出

第一款 小學校教員加俸資金 金參萬六千貳百拾六圓貳拾錢  
 第一項 年功加俸 金參萬貳千九百五拾貳圓貳拾錢  
 第二項 特別加俸 金參千貳百六拾四圓  
 歲出合計金參萬六千貳百拾六圓貳拾錢



府第九號議案 明治三十七年度東京府教育資金歲入歲出豫

算書.....可決

歲入

第一款 教育資金 金貳萬參千參百貳拾五圓

第一項 國庫下付金 金壹萬四千六百圓

第二項 財產收入 金八千七百貳拾五圓

歲入合計金貳萬參千參百貳拾五圓

歲出

第一款 教育資金 金貳萬參千圓

第一項 貸付金 金壹萬七千圓

第二項 補助金 金貳千圓

第三項 獎勵金 金四千圓

歲出合計金貳萬參千圓

府第十號議案 不動産賣却ノ件.....可決

東京市芝區愛宕町三丁目六番地

一 巡查教習所敷地八百六十七坪二合三勺

此豫定價格金貳萬六千拾六圓九拾錢 但一坪ニ付金參拾圓

一同 建物 八棟

外ニ門柵板塀等

此豫定價格金貳千百五拾貳圓

右不用ニ屬スルヲ以テ之ヲ賣却スルモノトス

(原案説明) 巡查教習所改築ノ上ハ不用ニ屬スルヲ以テ之ヲ賣却セントスルニ由ル

府第十一號議案 不動産賣却ノ件.....可決

東京市小石川區竹早町府立女子師範學校内

一 附屬小學校建物 但シ便所共

此建坪八十六坪

此豫定價格金九百五拾貳圓

右不用ニ屬スルヲ以テ賣却スルモノトス



(原案説明) 女子師範學校附屬小學校々舎ノ改築ニ伴フニ由ル

府第十二號議案 積立金ノ設置及特別會計ニ關スル件……………可決

府立各學校ニ屬スル毎年度經常部ニ於ケル歳出ノ決算剩餘金ハ之ヲ當該學校ノ基本金トシ特別會計ヲ設ケテ蓄積スルモノトス  
府立第四中學校ノ基本金ヨリ生スル利子ハ一般歳入ニ編入セス前項ト同シク蓄積スルモノトス

(原案説明) 府立學校維持ノ資ニ供スル爲蓄積金ヲ設ケントスルニ由ル

府第十三號議案 使用料増額ノ件……………可決

東京府立巢鴨病院入院料明治三十七年度ヨリ左ノ通改ムルモノトス

自費 一等患者 一日金貳圓

自費 二等患者 一日金壹圓貳拾錢

(原案説明) 入院料ハ從來一等金壹圓二等金六拾錢ナリシモ今回病室ノ改築ニ伴ヒ諸般ノ設備ヲ完成スルヲ以テ入院料ヲ昂騰セントスルニ由ル

府第十四號議案 市部郡部ノ分擔及收入割合中改正ノ件……………可決

明治三十二年勅令第二百八十五號第五條ニ依リ明治三十七年度府費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合中左ノ通改ムルモノトス

市部郡部分擔ノ割合

勸業費ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

市 九分七厘  
郡 三分

勸業補助費

(原案説明) 聖路易世界博覽會出品費ノ補助ヲ要スル爲之カ負擔割合ヲ設クルニ由ル

府第十五號議案 明治三十七年度東京府歳入歳出追加豫算書……………可決

歳入

經常部

第三款 雜收 入 金千百八拾圓五拾錢

第五項 辨償 金 金千百八拾圓五拾錢

第四款 市郡分賦額 金九千百八拾圓五拾錢



第一項 市郡分賦額 金九千八百八拾圓五拾錢

經常部合計金壹萬參百六拾壹圓

歲入總計金壹萬參百六拾壹圓

歲出

經常部

第二款 府廳舍修繕費 金貳千參百六拾壹圓

經常部合計金貳千參百六拾壹圓

臨時部

第九款 勸業補助費 金八千圓

第一項 勸業補助費 金八千圓

聖路易世界博覽會東京出品會補助

臨時部合計金八千圓

歲出總計金壹萬參百六拾壹圓

明治三十五年度東京府歲入歲出決算書……………承認

第六回内國勸業博覽會ヲ東京ニ開設スルノ建議……………可決

(建議の大要) 第六回内國勸業博覽會は、東京府下に於て適當の地をトシ開設せられたいと、内務大臣に意見書を呈出するので、建議案は、多數を以て可決した(議員松尾清次郎發議)。

土木衛生常設委員設置ノ建議……………可決

(建議の大要) 府費支辨の土木事業並に府費補助の町村土木工事及衛生病院費の支出を監査し施設の萬全を期するため、土木常設委員七名、衛生常設委員三名を設置する意見書を知事に呈出するので、建議案は、多數を以て可決した(議員杉原榮三郎外五名發議)。

行政執行法中密賣淫取締ニ關スル條項及明治二十八年警視

廳令第八號勵行ヲ望ムノ建議……………可決

(建議の大要) 府下に於ける密賣淫者は逐年増加し、風紀及衛生上默過し難き現狀



である。就ては、行政執行法並に警視廳令第八號を活用勵行して、害毒を防止するの措置を採られたいと、知事に意見書を呈出するので、建議案は多數を以て可決した(議員井田忠信發議)。

東京市區改正事業促進ニ關スル建議……………可決

(建議の大要) 東京市區改正事業は遅々として進捗を見ざる現況である。而して、市内の重要交通機關たる市街鐵道の敷設は、市區改正工事に伴ふべきものであるから、市區改正事業が進捗せざれば鐵道も敷設されず、隨て市民は其の利便に浴することが出来ない。東京府政は諸種の關係上、平素東京市政に對して斟酌顧慮するところ少からず、隨て市政の振否が我が府政に影響するところ頗る多大であるため、市區改正事業の遅々たる現況に對して黙止することが出来ぬ。冀くは市區改正事業の速成を見る様監視督勵せられたいと、内務大臣に意見書を呈出するので、建議案は多數を以て可決した(議員徳岡梅吉外五名發議)。

慢性傳染病取締法設定ニ關スル建議……………可決

(建議の大要) 慢性傳染病(結核、梅毒)の傳播を防護せんが爲、藝妓、酌婦、料理人、菓子職人等の身體検査を緊要と認むるから、當局者は之に對し、相當の取締法を設けられんことを希望する旨、知事に意見書を呈出するので、建議案は多數を以て可決した(議員水町猪三郎外三名發議)。

### 通常市部會

本會は、明治三十六年十一月二十四日午後三時七分に開議し、會議六日間に涉り、十二月十一日午後三時三十分議事終了散會した。

杉原議長は會議の同意を得て、福田又一、酒井泰を會議録署名議員に選定した。この會議に於て、特筆を要する事項は、次の二件である。

#### 一家屋稅營業稅乘率改正建議案

この建議案は、議員福田又一外十七名から提出したもので、其の要旨は、現行家屋稅賦課額算定ノ標準及方法ハ明治十七年始メテ制定施行セラレタルモノニシテ其ノ後營業稅ヲ賦課スルニ方リテモ亦此ノ方法ニ依リ爾來殆ント二十年全然之ヲ踏襲シ以テ今日ニ至レリ而シテ其ノ方法ハ地價ヨリ算出シタル地位等級ヲ本



位トシテ家屋税ニ於テ十九等營業税ニ於テ二十七等ノ區別ヲ立テタリ是レ明治ノ初年昔ノ江戸ハ變シテ東京トナリ四百六十ノ大名八萬騎ノ旗下ハ悉ク瓦解シ其ノ邸宅ハ皆曠廢シテ桑茶植付地トナリ千坪ノ拂下代金貳拾五圓ナリシ最下等ノ地位ナリ然ルニ今ヤ舊八百八町ノ場所ニシテ一等地ハ百坪ノ地價金貳千九百五拾五圓七拾五錢ナリ之ヲ千坪貳拾五圓ノ其レト對比スレハ其ノ差違ノ甚シキ實ニ驚クヘキニアラスヤ蓋シ當時ハ凡テ曠廢ニ屬セシ桑茶植付場ニシテ借地料幾何トナスカ如キ之カ算定ノ標準ヲ立ツルコト能ハサリシ事由アリサレハ其ノ當時ノ府會ノ處置ハ固ヨリ其ノ宜シキヲ得タルモノト謂フヘシ而シテ二十年ヲ經過シ來レル間ニ各市街ノ變遷消長セル跡ヲ察スルニ數千萬圓ノ金額ハ市區改正ノ爲メニ費サレ其ノ結果交通機關ノ設備ヲ促進シ此等ハ著シキ變動ヲ市街地ニ與ヘタリ昔ハ樞要ノ地區タリシモ今ハ行人寥々ノ衰運ニ陥レルカ如キ當時ハ狹矮劣等ノ市街ナリシモ今ハ現ニ都下有數ノ繁榮地トナレルカ如キ其ノ盛衰ノ激甚ナル殆ント隔世ノ感アルナリモト此ノ乘率ハ公平ノモノナリシコト疑フヘカラサルモ今ハ此乘率アルカ爲メニ府税賦課法ハ極メテ不公平ノモノトナレリ(中略)速ニ現行賦課法ノ乘率ヲ全廢シ新タニ家屋税ニ於テハ借地料ヲ以テ標準ト

シテ乘率ヲ設ケ營業税ニ於テハ國税營業税ノ方法ニ依リ兩税賦課規則改正案ノ提出アラント望ム(建議書)といふのであつた。會議に於ては、重要案件なれば慎重なる調査を要するものとし、七名の調査委員を設けて、之に附託調査せしむることとなり、調査の結果、委員長秦源祐から「調査ノ結果改正ノ必要ヲ認めサルニアラサルモ未タ時機ノ宜シキヲ得サルモノト認め一名ニ對スル五名ノ多數ヲ以テ之ヲ否決セリ(報告書)」と報告した。この報告に對しても、更に賛否の論議が交はされ、結局、多數を以て委員會の報告を容れ建議案は否決となつた。

## 二 前年來の建議に對する調査委員七名設置の建議

この建議案は、議員小林一生が提出したもので、一、明治三十三年以來市部會より建議せる衛生組合廢止に關する件、二、同三十四年以來建議せる庭園税新設に關する件、三、府立職工學校の程度を高め及附屬徒弟學校を増設する件の三項目に對し、委員を舉げて理事者の措置を調査せんとする趣旨である。會議に於ては建議を容れ、七名の調査委員を設けて調査せしめた結果、委員長松尾清次郎から次の報告があつた。

### 一 衛生組合廢止要望の件は、昨三十五年通常市部會の節理事者から、今後一ヶ



年間に於て、組合の改善を實行すべき旨申出があつたので、之を認容し、確實に改善の實行を求めてをいた。然るに、爾來今日迄の一ヶ年間に、理事者が改善に盡せりと稱する事項は、各區に吏員を派遣し或は訓令又は通牒を發したる等の數項に止まつて、本會が期待した改善事項とは多大の相違あるのみならず、理事者の云爲するところに依て考察するに、當局は組合廢止を實行する意思なく、又進んで急速の改善を企圖せざる方針なりと認むる外なきを以て、最早本會は之に對し、任意の行動を採るの已むなきを認む。

二 庭園稅新設に關する件は、當局に於て、成るべく各種材料を蒐集して慎重なる調査研究を遂ぐるため、一ヶ年の猶豫期間を承認したものである。而して爾後の経過を質したところ、市内の數區に就き先づ以て空坪の調査を行ひたるも直ちに採て課稅の標準と爲し難きのみならず、課稅の範圍に關しても未だ適當の方案を見出さず、自然、本稅の課否如何に就ても尙ほ考慮中なりとの答辨であつた。之に由て考察するに、當局は調査研究に格別の力を盡さず、昨來の公約を無視して毫も本會の意思を尊重する態度を示さず、一ヶ年を無爲に空過したるものと認むるの外なきを以て、本會は適當の手段にて理事者を反省せしむるの必要なるを認む。

三 府立職工學校の程度を高め及附屬徒弟學校を増設する件は、昨年調査委員に附託し、其の調査報告の結果、市部會に於ては、右報告の外別に工業學校設置に關する要望を決議したるを以て、兩項を併せて審議を遂げたるに、理事者は、工藝學校を設立するの成案を得て、之を府參事會に提出したるも、參事會は、府の財政上目下其の時機にあらずとして之を否決し、理事者も亦之に同意したのである。仍て工藝學校案なるものを審査したところ、曩に本會が決議せる工業學校と名稱を異にするも、其の趣旨に於て合致するものであり、其の設立は尤も時宜に適したるものと認むるを以て、市部會に於ては、理事者をして次年度通常會を待たず提案せしむるの措置を採るの適當なるを認む。

この委員會の報告に對しては、之を是認するか又は單に報告を報告として受くるに止むるかに就て、多少の論議もあつたが、採決の結果、單に報告を受くるに止むることに決した。

議案 附建議案

市部 第一號議案 明治三十七年度東京府市部營業稅雜種稅課目課額………修正



市第二號議案部	明治三十七年度東京府市部歲入歲出豫算書……………修正
市第三號議案部	明治三十七年度東京府市部請願巡查費徵收額……………可決
市第四號議案部	明治三十七年度東京府市部學資金歲入豫算書……………可決
市第五號議案部	積立金ノ設置及特別會計ニ關スル件……………可決
市第六號議案部	明治三十七年度東京府市部歲入歲出追加豫算書……………可決
	明治三十五年度東京府市部歲入歲出決算書……………承認
	家屋稅營業稅乘率改正建議案……………否決
	府稅賦課規則中改正ニ關スル建議案……………否決
	電車ニ課稅ノ建議案……………可決
	前年來ノ建議ニ對スル調査委員設置ノ建議案……………可決

議決摘要

市第一號議案部 明治三十七年度東京府市部營業稅雜種稅課目  
 課額……………修正

雜種稅

一 相撲	〔月稅金貳拾圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
二 等	〔月稅金拾圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
三 等	〔月稅金五圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
四 等	〔月稅金貳圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕

(修正理由) 俳優稅ノ修正ニ準シタルニ由ル議員酒井泰動議

一 俳優	〔月稅金貳拾五圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
二 等	〔月稅金拾圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
三 等	〔月稅金六圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
四 等	〔月稅金四圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
五 等	〔月稅金參圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
六 等	〔月稅金貳圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
七 等	〔月稅金壹圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕
八 等	〔月稅金參圓〕 〔年稅金百八拾圓〕 〔同金百四拾圓〕 〔同金百圓〕 〔同金壹圓五拾錢〕



九等

〔月税金貳拾錢〕  
〔年税金壹圓五拾錢〕<sub>修正</sub>

(修正理由) 税額過酷ナルトキハ各俳優カ地位ニ相當セル等級ヲ届出サル傾向アルヲ以テ適當ニ減額スルノ必要アルト月税金ナルトキハ興行ノ有無ニ由テ頻繁ニ開廢業ヲ届出テ取扱上煩雜ナルヲ以テ年税金ニ改ムルヲ適當トスルト以上ニ依リ改正スルモ税金收入額ヲ減セサルノミナラス寧ロ幾分ノ増加ヲ見ルヘキ見込ナルニ由ル(調査委員意見) 委員長齋藤孝治

一市場

深川區東京米穀問屋市場

年税

〔金四拾圓〕<sub>修正</sub>  
〔金參百六拾圓〕<sub>修正</sub>

同 區東京廻米問屋市場

同

〔金九拾圓〕<sub>修正</sub>

(修正理由) 過當ト認ムルニ由ル(議員袴田瀧三郎動議)

一車

自用馬車

二匹立以上

年税

〔金參拾圓〕<sub>修正</sub>  
〔金貳拾圓〕<sub>修正</sub>

一匹立

同

(修正理由) 少額ニ失スト認ムルニ由ル(議員徳岡梅吉動議)

營業人力車

同

〔金五拾錢〕<sub>修正</sub>  
〔金貳拾錢〕<sub>修正</sub>

(修正理由) 電車ノ出現ニ由リ營業人力車ノ被ムレル打撃等ニ顧ミ減税ヲ相當トスル

ニ由ル(議員齋藤鐵太郎動議)

一屠畜

積羊豚

一頭ニ付 税

〔金參拾錢〕<sub>修正</sub>  
〔金拾錢〕<sub>修正</sub>

(修正理由) 脱税ノ目的ニテ密ニ屠殺スルモノ多キヲ以テ之ヲ防止シ兼ネテ屠殺獸肉ノ顯微鏡検査ノ普及徹底ヲ期セントスルニ由ル(議員酒井泰動議)

一採藻

海苔採

一等

海面百坪ニ付 年税

〔金七拾錢〕  
〔金壹圓四拾錢〕<sub>修正</sub>

二等

同

〔金五拾五錢〕  
〔金壹圓拾錢〕<sub>修正</sub>

三等

同

〔金四拾錢〕  
〔金八拾錢〕<sub>修正</sub>

四等

同

金參拾錢

五等

同

金貳拾錢(修正削除)

(修正理由) 増税ノ餘地アリト認ムルニ由ル(調査委員意見) 委員長坂倉謹次郎

一自轉車

〔年税金貳圓〕<sub>修正追加</sub>

營業

年税 金貳圓



自用

年稅 金參圓(修正削除)

(修正理由) 自轉車使用ノ範圍非常ニ擴マリ現在ニ於テハ一般生活上ノ必需品ト看做スヘキ程度ニ達シタルニ付最早營業ト自用トヲ區別スルノ不適當ナルト區別ヲ廢止スル以上ハ從來ノ營業用自轉車ノ稅額ト同額ヲ課スルヲ適當ト認ムルニ由ル議員酒井泰動議

市部  
第二號議案

明治三十七年度東京府市部歲入歲出豫算書……………修正

歲入

經常部

- 第一款 地租 割 金拾六萬貳千六百圓
- 第一款 地 租 割 金拾六萬貳千六百圓  
(地租壹圓ニ付六拾錢)
- 第二款 營業 稅 金六萬九百參拾壹圓六拾六錢
- 第一款 商 業 稅 金參萬七千五百五拾八圓八拾六錢
- 第二款 工 業 稅 金貳萬參千參百七拾貳圓八拾錢
- 第三款 難 種 稅 金參拾六萬七千四百四拾壹圓七拾七錢  
(修正)金參拾五萬貳千八百參拾六圓貳拾七錢

第十項

相 撲

稅 金千九百四圓四拾錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル

(修正)金千參百七拾四圓

第十項

俳 優

稅 金七千參百四拾四圓

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル

(修正)金七千四百六圓

第十項

市 場

稅 金四千百七拾五圓

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル

(修正)金參千八百七拾五圓

第十項

車

稅 金拾壹萬貳千參拾六圓參拾錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル

(修正)金拾萬貳千六百七拾壹圓六拾錢

第十項

屠 畜

稅 金貳萬千七百七圓貳拾錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル

(修正)金壹萬七千九百七拾圓八拾錢



第五項 採藻稅

金千貳百五拾貳圓四拾錢  
(修正)金四千四百八拾七圓四拾錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル

第六項 自轉車稅

金壹萬五千四百六拾七圓  
(修正)金壹萬八百九拾六圓

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル

第四款 營業稅附加稅

金拾六萬貳千九百圓

第一款 營業稅附加稅

金拾六萬貳千九百圓  
(國稅額ノ十分ノ一・五)

第五款 家屋稅

金貳拾參萬八千四百七拾參圓

(修正)金貳拾五萬千七百貳拾壹圓五拾錢

第一項 家屋稅

金貳拾參萬八千四百七拾參圓  
(二個ニ付壹錢八厘)

(修正)金貳拾五萬千七百貳拾壹圓五拾錢  
(壹個ニ付壹錢九厘)

(修正理由) 課目課額修正ノ結果雜種稅ニ於テ減額ニ付本稅ヲ增額補填スルニ由ル

第六款 財產收入

金千圓

第一項 財產收入

金千圓

第七款 國庫下渡金

金參拾七萬參千九百八拾六圓參拾四錢四厘

第一項 警察費下渡金

金參拾七萬參千九百八拾六圓參拾四錢四厘

第八款 雜收入

金拾貳萬貳千八百拾九圓貳錢九厘

第九款 市郡連帶市部收入額

金拾六萬七千六百拾七圓九拾參錢九厘

第一項 市郡連帶市部收入額

金拾六萬七千六百拾七圓九拾參錢九厘

經常部合計金百六拾五萬七千七百六拾九圓七拾四錢貳厘

(修正)金百六拾五萬六千四百拾貳圓七拾四錢貳厘

臨時部

第一款 繰越金

金百圓

第一項 前年度繰越金

金百圓

第二款 國庫補助金

金九千百貳拾壹圓七拾五錢七厘

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金

金千六百六拾六圓六拾六錢七厘

第二項 教育費補助金

金貳千五百圓

第三項 警察費補助金

金四千八百四拾五圓拾七錢八厘

第四項 警察廳舍建築修繕費補助金

金百九圓九拾壹錢貳厘



第三款 財產賣拂代 金千八拾貳圓五拾錢

第一項 不動產賣拂代 金千八拾貳圓五拾錢

臨時部合計金壹萬參百四圓貳拾五錢七厘

歲入總計金百六拾六萬八千七拾參圓九拾九錢九厘

(修正)金百六拾六萬六千七百拾六圓九拾九錢九厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金九拾五萬五千七百貳拾參圓九拾五錢

第一項 俸給及諸給 金七拾壹萬四千百參拾八圓四拾五錢

巡查二千七百八十六人月俸拾四圓此金四拾六萬八千四拾八圓書記百八十四

人月俸拾參圓此金貳萬八千七百四圓巡查宿料二千七百八十六人分月額貳圓

此金六萬六千八百六拾四圓諸備給(消防)八萬參千八百五圓四拾五錢其他手當

旅費惠與巡查給助等 費 金貳拾四萬五千五百八拾五圓五拾錢

第二款 警察廳舍修繕費 金參千圓

第一項 修繕費 金參千圓

第三款 教育費 金壹萬五千六百八拾九圓貳拾五錢

第一項 職工學校費 金壹萬五千六百八拾九圓貳拾五錢

第四款 府吏員費 金貳千六百八拾五圓

第一項 吏員費 金貳千六百八拾五圓

第五款 財產費 金壹圓

第一項 管理費 金壹圓

第六款 府費取扱費 金六千貳百八拾圓

第一項 徵收費 金六千貳百八拾圓

第七款 豫備費 金五千圓

第一項 豫備費 金五千圓

第八款 市郡分賦市部負擔額 金六拾壹萬七千八百七圓八拾貳錢六厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金六拾壹萬七千八百七圓八拾貳錢六厘

經常部合計金百六拾萬六千八百八拾七圓貳錢六厘

臨時部



第一款 警察廳舎建築費 金參百八拾四圓

第一項 建築費 金參百八拾四圓

第二款 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬圓

第三款 警察廳舎建築費本年度支出額 金四萬七千六百六拾八圓

第一項 警察分署消防組員派出所  
其他建築費本年度支出額 金四萬七千六百六拾八圓

第四款 教育費 金八拾貳圓

第一項 職工學校費 金八拾貳圓

臨時部合計金五萬八千百參拾四圓

歲出總計金百六拾六萬四千參百貳拾壹圓貳錢六厘

市 第三號議案部 明治三十七年度東京府市部請願巡查費徵收額……可 決

一金貳拾壹圓八拾錢 市部巡查一人一ヶ月分

市 第四號議案部 明治三十七年度東京府市部學資金歲入豫算書……可 決

歲入

第一款 學資 金 金貳百九拾圓四拾貳錢

第一項 財產收入 金貳百九拾圓四拾貳錢

歲入合計金貳百九拾圓四拾貳錢

市 第五號議案部 積立金ノ設置及特別會計ニ關スル件……可 決

府立職工學校ニ屬スル毎年度經常部ニ於ケル歲出ノ決算剩餘金ハ之ヲ該學校ノ  
基本金トシ特別會計ヲ設ケテ蓄積スルモノトス  
(原案説明) 職工學校維持ノ資ニ供スル爲蓄積金ヲ設ケントスルニ由ル

市 第六號議案部 明治三十七年度東京府市部歲入歲出追加豫算書……可 決

歲入

經常部

第五款 家屋稅 金壹萬參千貳百四拾八圓五拾錢

第一項 家屋稅 金壹萬參千貳百四拾八圓五拾錢  
(一個ニ付壹厘)

第五章 府會の行動 明治三十六年の府會 五五九



第九款 市郡連帶市部收入額 金九百七拾九圓八拾壹錢五厘

第一項 市郡連帶市部收入額 金九百七拾九圓八拾壹錢五厘

經常部合計金壹萬四千貳百貳拾八圓參拾壹錢五厘

歲入總計金壹萬四千貳百貳拾八圓參拾壹錢五厘

歲 出

經 常 部

第八款 市郡分賦市部負擔額 金九千六百壹圓五拾八錢

第一項 市郡分賦市部負擔額 金九千六百壹圓五拾八錢

經常部合計金九千六百壹圓五拾八錢

歲出總計金九千六百壹圓五拾八錢

明治三十五年度東京府市部歲入歲出決算書……………承認

家屋稅營業稅乘率改正建議案……………否決

(註)特筆事項として詳記したから、爰に省略する(議員福田又一外十七名發議)。

府稅賦課規則中改正ニ關スル建築案……………否決

(建議の大要) 現行府稅賦課規則に於て、家屋稅其の他使用建物を標準として賦課する府稅は、二階以上及床下共、床面より天井又は梁までの高さ五尺以上のものに對して、總て其の坪數を課稅標準に算入するに拘らず、建物の高さが二階以上に匹敵するも、階上床板の設備なきものは、平家建として坪數を算定してゐる。しかしながら、二階建以上に匹敵する高さを有し、相當に使用上の利便を得てゐるに拘らず、單に平家建の坪數に據て課稅するのは、權衡を得ないから賦課規則に於て、一定の高さを有する建物は、其の高さに應じて之を二階三階四階等と看做し、坪數を算定して課稅することとし、規則改正案を提出せられたいといふ趣旨である(議員村田權次郎發議)。

この建議は、七名の調査委員に附託となり、調査の結果委員長齋藤孝治から次の報告があつた。

右審査スルニ改正案ノ要旨ハ事實二階又ハ三階トシテ使用セサルモ其建物ノ高サノミニ仍リ二階又ハ三階ト想像シテ課稅スル主旨ニ外ナラス故ニ現行賦課法ヲ適當ト認ムルニ付建議ハ之ヲ否決ス

會議に於ては、委員の報告を可決し、建議案は否決となつた。



電車ニ課税ノ建議案……………可決

(建議の大要) 從來市部に於ける馬車鐵道には、課税し來つたにも拘らず、今回其の動力を變更して電車に換へたるもの及新設に係る電車に對しては、全然課税をして居らぬ。目下府費多端の折柄、斯の如き好財源を逸するは、實に府財政上不得策であるのみならず、一二の營利會社に利益を獨占せしむることゝなるから、適當の調査を遂げて、相當課税の方法を定め發案せられたいと、知事に建議するので、案は多數を以て可決した(議員秦源祐發議)。

前年來ノ建議ニ對スル調査委員設置ノ建議案……………可決

(註) 特筆事項として詳記したから爰に省略する議員小林一生發議。

通常郡部會

本會は、明治三十六年十一月二十四日午後三時十三分に開議し、會議五日間で十二月十一日午後三時四十四分議事終了散會した。秋本議長は、會議の同意を得て、井上吉之助、谷岡慶治を會議録署名議員に選定した。

議案 附決議案

第一號 議案部	自明治三十七年度至明治三十八年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方法……………可決
第二號 議案部	明治三十七年度東京府郡部歳入歳出豫算書……………修正
第三號 議案部	明治三十七年度東京府郡部營業稅雜種稅課目課額……………修正
第四號 議案部	府稅賦課規則中改正ノ件……………修正
第五號 議案部	明治三十七年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………可決
第六號 議案部	明治三十七年度東京府郡部恩賜金歳入歳出豫算書……………可決
第七號 議案部	明治三十七年度東京府郡部巡查給助資金歳入歳出豫算書……………可決
第八號 議案部	明治三十七年度東京府郡部救恤資金歳入豫算書……………可決
第九號 議案部	明治三十七年度東京府郡部學資金歳入豫算書……………可決
第十號 議案部	明治三十七年度東京府郡部衛生資金歳入豫算書……………可決
第十一號 議案部	明治三十七年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決



明治三十五年度東京府郡部歳入歳出決算書……………承認  
 府費支辨若クハ補助道編入及廢止取調ニ關スル決  
 議案……………可決

議決摘要

郡部 第一號議案部 自明治三十七年度東京府郡部土木費繼續年期及支  
 至明治三十八年度  
 出方法……………可決

一金壹萬五千圓

道路橋梁費中橋梁架換費

内

金五千圓

明治三十七年度支出額

金壹萬圓

明治三十八年度支出額

右ハ滿地通青梅道西多摩郡青梅町吉野村間多摩川ニ架スル萬年橋ハ明治三十一  
 年度ニ架設セシ假橋ニシテ漸次腐朽破損ヲ生シ交通上危險ナルニ依リ更ニ堅牢  
 ナル橋梁ヲ架セントスルニアリ而シテ該位置ノ狀況ト構造ノ特殊ナルカ爲材料  
 ノ蒐集等ニ時日ヲ要スルヲ以テ之ヲ二箇年ノ繼續事業トシ其ノ竣成ヲ期セント

ス

郡部 第二號議案部 明治三十七年度東京府郡部歳入歳出豫算書……………修正

歳入

經常部

第一款 地	租	割	金貳拾四萬貳千四百拾八圓
第一項 地	租	割	金貳拾四萬貳千四百拾八圓
第二款 營業	稅		金貳萬五千百拾四圓貳拾參錢 <small>(地租壹圓ニ付六拾六錢)</small>
第一項 商	稅		金壹萬八千九拾四圓六拾參錢
第二項 工	稅		金七千拾九圓六拾錢
第三款 雜	種	稅	金拾四萬參千五百拾壹圓參拾四錢 (修正)金拾四萬貳千九百四拾參圓貳拾錢
第六項 車		稅	金八萬六千九百參拾五圓 (修正)金八萬六千四百五拾四圓八拾錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル



第三項 屠 畜 稅 金九百九拾六圓參拾錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ依ル (修正)金五百貳拾七圓拾錢

第三項 自 轉 車 稅 金貳千參百五圓

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル (修正)金貳千四百參圓

第三項 火 葬 場 稅 金貳千八百四拾參圓九拾八錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル (修正)金參千四百拾參圓

第三項 法 人 建 物 稅 金九百九拾參圓四拾四錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル (修正)金千六拾七圓六拾八錢

第四款 營業 稅 附加 稅 金貳萬貳千六拾圓

第一項 營業 稅 附加 稅 金貳萬貳千六拾圓

第五款 家 屋 稅 金七萬貳千五拾壹圓七拾錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル (修正)金六萬五千七百拾貳圓九拾四錢

第一項 家 屋 稅 金七萬貳千五拾壹圓七拾錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル (修正)金六萬五千七百拾貳圓九拾四錢

第六款 戶 數 割 金八萬參千九百拾九圓

第一項 戶 數 割 金八萬參千九百拾九圓

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル (修正)金九萬貳百參拾七圓八拾四錢

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル (修正)金九萬貳百參拾七圓八拾四錢

第七款 財 產 收 入 金百六圓

第一項 不 動 產 收 入 金七拾圓

第二項 動 產 收 入 金參拾六圓

第八款 國 庫 下 渡 金 金七萬四千貳百貳拾五圓五拾五錢六厘

第一項 警 察 費 下 渡 金 金七萬四千貳百貳拾五圓五拾五錢六厘

第九款 雜 收 入 金五萬百拾貳圓九拾壹錢

第十款 市郡連帶郡部收入額 金參萬七千貳百四拾參圓六拾五錢五厘

第一項 市郡連帶郡部收入額 金參萬七千貳百四拾參圓六拾五錢五厘

經常部合計金七拾五萬四百貳圓參拾九錢壹厘



(修正)金七拾五萬百七拾四圓參拾參錢壹厘

臨時部

第一款 繰越金 金壹萬五千圓

第一項 前年度繰越金 金壹萬五千圓

第二款 國庫補助金 金參千參百圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金千圓

第二項 農事試驗場補助金 金貳千參百圓

臨時部合計金壹萬八千參百圓

歲入總計金七拾六萬八千七百貳圓參拾九錢壹厘

(修正)金七拾六萬八千四百七拾四圓參拾參錢壹厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金拾八萬參千七百六拾八圓八拾八錢九厘

第一項 俸給及諸給 金拾四萬五千參拾五圓六拾錢

巡查六百九人月俸拾四圓此金拾萬貳千參百拾貳圓書記七十九人月俸拾參圓

此金壹萬貳千參百貳拾四圓巡查宿料六百九人月額壹圓參拾五錢此金九千八百六拾五圓其他手當旅費惠與諸傭給巡查給助等

第二款 警察廳舍修繕費 金五百圓

第一項 修繕費 金五百圓

第三款 土木費 金拾五萬八千八百七拾壹圓六拾五錢五厘

第一項 道路橋梁費 金拾四萬七千貳百拾參圓四拾壹錢

第二項 治水堤防費 金壹萬千六百五拾八圓貳拾四錢五厘

第四款 郡廳舍修繕費 金九百六拾七圓

第一項 修繕費 金九百六拾七圓

第五款 郡役所費 金四萬參千七百七拾八圓貳拾錢

第一項 俸給及諸給 金參萬五千五百貳拾五圓八拾錢

第二項 廳費 金七千六百五拾貳圓四拾錢

第六款 救育費 金千六百九拾五圓

第一項 救助費 金千六百九拾五圓



第七款 諸達書及揭示諸費 金拾六圓

第一項 令 達 諸 費 金拾六圓

第八款 勸 業 費 金壹萬貳千七百九圓參拾五錢

第一項 農 事 試 驗 場 費 金壹萬貳千五百貳拾壹圓參拾五錢

第二項 勸 業 諸 費 金百八拾八圓

第九款 府 費 取 扱 費 金壹萬五千參拾貳圓

第一項 徵 收 費 金壹萬五千參拾貳圓

第十款 府 吏 員 費 金參千九百拾五圓

第一項 吏 員 費 金參千九百拾五圓

第七款 財 產 費 金六圓

第一項 管 理 費 金六圓

第三款 豫 備 費 金五千圓

第一項 豫 備 費 金五千圓

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金貳拾參萬五千七拾八圓七拾錢

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金貳拾參萬五千七拾八圓七拾錢

經常部合計金六拾六萬七百參拾七圓七拾九錢四厘

臨時部

第一款 警 察 廳 舍 建 築 費 金貳千四百貳拾圓

第一項 建 築 費 金貳千四百貳拾圓

第二款 土 木 費 金參萬八千八百七拾四圓

第一項 道 路 橋 梁 費 金參萬四千四百圓

第二項 治 水 堤 防 費 金四千四百七拾四圓

第三款 郡市町村土木補助費 金貳萬七千八百貳拾七圓拾錢

第一項 道 路 橋 梁 費 補助 金壹萬四千四百九拾壹圓參拾八錢八厘

第二項 治 水 堤 防 費 補助 金四百拾壹圓九拾八錢貳厘

第三項 土 木 費 補助 金壹萬貳千九百貳拾參圓七拾參錢

第四款 衛 生 及 病 院 補 助 費 金貳千六百五拾六圓

第一項 病 院 補 助 費 金貳千六百五拾六圓

第五款 市町村傳染病豫防補助費 金六千圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金六千圓







營業人力車

- 二人乗 乘臺ノ横巾内法
- 一人乗 乘臺ノ横巾内法

年税 「金壹圓五拾錢」ト修正  
同 「金壹圓」ト修正

(修正理由) 不相當ト認ムルニ由ル(調査委員意見)

一自轉車

年税 金參圓(修正追加)

「營業

年税 金貳圓

自用

同 金參圓(修正削除)

(修正理由) 不相當ト認ムルニ由ル(調査委員意見)

一火葬場

收入金高百分ノ「五」「六」ト修正

(修正理由) 不相當ト認ムルニ由ル(調査委員意見)

一屠畜

積羊豚

一頭ニ付

「金參拾錢」ト修正

(修正理由) 不相當ト認ムルニ由ル(調査委員意見)

第四號議案部 府稅賦課規則中改正ノ件……………修正

東京府郡部ニ屬スル府稅賦課規則中左ノ通改ムルモノトス

第十二條 營業稅、雜種稅中收入高ニ依リ課稅スルモノハ前一箇年ノ總額ニ依ル

但シ前一箇年ノ收入ニ依リ難キモノハ豫算ニ依ル

第二十一條 荏原郡ノ末ニ目黒村、世田ヶ谷村、入新井村、大森町、羽田村(修正削除)豊多摩郡ノ末ニ「中野町」(修正削除)戸塚村、落合村、北豊島郡ノ末ニ三河島村、巢鴨村、高田村、南葛飾郡ノ末ニ砂村ヲ加フ

(修正理由) 他ノ家屋稅施行ノ町村ト比例ヲ一ニセサル場合アルニ付暫ク現行ノ儘据置ヲ

可ナリトスルニ由ル(調査委員意見)

第二十二條 第一項標準トシテノ下ニ南多摩郡八王子町ニ係ルモノハ毎年度歲入豫算ニ定メタル負擔額ニ基キ前半期ハ四月三十日迄後半期ハ十月三十日迄ニ該町會ニ於テ議定スヘク其ノ他ノ町村ハ「七十一」字ヲ加フ

第二十五條 第一項但書中第四號乃至第七號ヲ第五號乃至第十號ニ改ム

第二十五條 第一項第三號ノ次ニ左ノ第四號、第七號ノ次ニ左ノ第九號、第十號ヲ加ヘ從前ノ第四號以下順次繰下ク

四 各種ノ所得



九 土地ノ面積

十 土地家屋森林原野ノ賣買價格若ハ賃貸價格

附 則

此ノ改正ハ明治三十七年度ヨリ施行ス

(原案説明) 第十二條ノ改正ハ事實ニ適當ナラシムルカ爲ニシテ第二十一條ハ家屋稅施行ノ町  
村ニ比シ其ノ狀況略類似スルヲ以テ戶數割ヲ改メテ家屋稅ヲ施行セントシ第二十二條ハ南多  
摩郡八王子町ニ於テハ他ト同一ノ方法ニ據リ難キ事情アルヲ以テ納稅義務者ノ賦課額ノ決定  
及賦課標準トスヘキ物件等ノ採擇ヲ町會ノ議決ニ委セントスルニ在リテ第二十五條ハ戶數割  
賦課ノ課率ヲ定ムヘキ標準ノ範圍ヲ擴充シ町村會ヲシテ土地ノ實況ニ照シ採擇ノ便ヲ與ヘン  
トスルニ在リ

第五號議案部

明治三十七年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………可 決

一金貳拾壹圓拾錢

郡部巡查一人一ヶ月分

第六號議案部

明治三十七年度東京府郡部恩賜金歲入歲出豫  
算書……………可 決

歲 入

第一款 恩 賜 金 金五百九拾四圓

第一項 繰 越 金 金參拾參圓

第二項 財 産 收 入 金五百六拾壹圓

歲入合計金五百九拾四圓

歲 出

第一項 恩 賜 金 金五百九拾四圓

第一項 公債證書買入代 金五百九拾四圓

歲出合計金五百九拾四圓

第七號議案部

明治三十七年度東京府郡部巡查給助資金歲入  
歲出豫算書……………可 決

歲 入

第一款 巡查給助資金 金壹萬五百參拾參圓

第一項 繰 越 金 金千圓

第五章 府會の行動

明治三十六年の府會



第二項 郡部歲出繰入金 金四千六百四拾參圓

第三項 財產收入 金四千八百九拾圓

歲入合計金壹萬五百參拾參圓

歲出

第一款 巡查給助資金 金壹萬五百參拾參圓

第一項 給助金 金壹萬五百參拾參圓

歲出合計金壹萬五百參拾參圓

郡部  
第八號議案部

明治三十七年度東京府郡部救恤資金歲入豫算書……可決

第一款 救恤資金 金四百圓

第一項 財產收入 金四百圓

歲入合計金四百圓

郡部  
第九號議案部

明治三十七年度東京府郡部學資金歲入豫算書……可決

歲入

第一款 學資 金七拾六圓八拾九錢

第一項 財產收入 金七拾六圓八拾九錢

歲入合計金七拾六圓八拾九錢

郡部  
第十號議案部

明治三十七年度東京府郡部衛生資金歲入豫算書……可決

歲入

第一款 衛生資金 金百四拾參圓參拾八錢

第一項 財產收入 金百四拾參圓參拾八錢

歲入合計金百四拾參圓參拾八錢

郡部  
第十一號議案部

明治三十七年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……可決

歲入

經常部

第十款 市郡連帶郡部收入額 金貳百圓六拾八錢五厘

第一項 市郡連帶郡部收入額 金貳百圓六拾八錢五厘

第五章 府會の行動 明治三十六年の府會